

取扱説明書

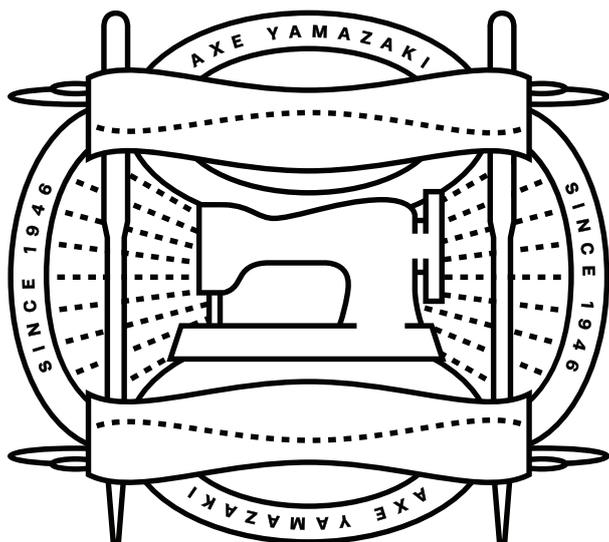
オーエム

型式：OM-01 シリーズ

QRコードを読み取るとミシンの様々な使いかた
説明の動画を見ることができます。

お持ちのスマートフォン以外にもタブレット
パソコンなどでもご覧になれます。

<https://www.axeyamazaki.co.jp/products/om-01/>



TOKYO
OTOKO
ミシン



警告

電気製品は安全のための注意事項を守らなければ、火災や人身事故になる場合がございます。
この「取扱説明書」には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いを示しています。
この「取扱説明書」をよくお読みのうえ、△マークを守ってこの製品を安全にご使用ください。

また、お読みになった後はいつでも見るできるように、必ず保管してください。

AXE YAMAZAKI

もくじ

お使いになる前にお読みください

安全にご使用いただくために	2
取り扱いのお願い	4
ミシンの持ち運びについて	5
各部の名まえ	5
付属品	7

縫う前の準備

はじめてミシンをご使用されるかたへ	8
糸立て台の組み立て	9
電源を入れる	10
ボビンの取り出しかた	11
下糸巻き軸にボビンをセットする	13
下糸の巻きかた	17
下糸のセット	20
上糸のかけかた	22
下糸の引き上げかた	28

縫ってみる

試し縫いの前に	30
試し縫い	31
送り長さの調節	36
返し縫い	37
糸調子の合わせかた	39
針、糸、布の関係・上糸調節ツマミ位置の目安	40
押え上げレバー	41
押え圧力調節	41
縫い方向を変える	42
厚い布や段差を縫う	42
押えの取り外しかた・取り付けかた	43
針の取り替えかた	46
正しい針の選びかた	46

お手入れ

油をさす	47
カマのそうじ	51
送り歯のそうじ	53

その他

困ったときは	54
仕様	56
修理サービス要領	57
お問い合わせまたはご相談先	57
保証書	終

安全にご使用いただくために

ご使用の前に「取扱説明書」を必ず読み、正しく安全にご使用ください。

この取扱説明書および商品には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。以下の表示を無視して誤った取り扱いをすることにより生じる内容を、次のように区分しています。

以下の内容をよく理解してから本文を読み、記載事項をお守りください。

- このミシンは日本国内向け家庭用です。 For use in JAPAN only. 国外での使用および職業用としてご使用になった場合の保証はできません。
- 仕様および外観は品質改善のため、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製をすることは禁じられておりますのでご了承ください。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。	 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人がケガをしたり財産に損害が生じる恐れがある内容を示しています。
--	---	---	--

この説明書で使用している絵文字の意味は次の通りです。

危険性を促す記号			行為を「禁止」する記号		行為を「指示」する記号	
						
火災の原因になります	感電の危険性があります	ケガの危険性があります	禁止	分解禁止	必ずすること	電源プラグを抜く

 警告		  死亡、火災、感電の恐れがあります。	
	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では絶対に使用しないでください。 AC100V 50/60Hz		ミシンの中に水や異物が入ったときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
			
	電源コードを傷つけたり、折り曲げ、結び、ねじれ、加工はしないでください。		発煙や異臭、異音などの異常が発生したら電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
火災・感電の原因となります。	傷付いたり、溶けて線がむき出しになったコードを使わないでください。 * コードが傷付いた場合は販売店・サービスセンターにて純正部品をお買い求めください。	火災・感電の原因となります。 販売店・サービスセンターにご連絡ください。	落としたり正常に作動しないときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
	電源コードに机や椅子の脚など、重いものを載せないでください。		電源コードプラグをコンセントにしっかりさし込んでください。
	延長コードや分岐コンセントを使用したタコ足配線はしないでください。		ミシン本体やモーターの内部に異物を入れたり、ドライバーなどをさし込まないでください。



注意



ケガや財産に損害が生じる恐れがあります。



- ・ ミシンを不安定な場所に置かないでください。
- ・ 動作中に、はずみ車・針・天びんに手を触れないでください。
手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。
- ・ 曲がった針は使わないでください。
針が折れ、ケガの原因になります。
- ・ すべり板を開けたままミシンを操作しないでください。
- ・ 縫製中、布を無理に引っばったり、押ししたりしないでください。
手や指が挟まる、針が刺さるなどケガの原因になります。



- ・ 火の気のあるもののそばでは使用しないでください。
(火の消えていないタバコ、ロウソクなど)
火災の原因になります。
- ・ モーターの換気口をふさがないでください。
- ・ モーターの換気口に糸くずやホコリが溜まらないようにしてください。
火災の原因になります。
- ・ スプレー製品などをご使用の部屋では、使用しないでください。
スプレーへの引火によるヤケド・火災の原因になります。



- ・ ミシンを使用しないときやミシンから離れたり、使用を中断するときはコンセントから電源コードプラグを抜いてください。
絶縁劣化、漏電などによる火災の原因になります。



- ・ 電源コードはミシン本体やフットコントローラーに巻き付けしないでください。
コードの断線や接触不良による感電の原因になります。
- ・ 濡れた手で電源コードプラグを抜きさししないでください。
感電の原因になります。



- ・ 幼児の手が届かない場所に保管してください。
針や押えなどの突起でケガの原因になります。
- ・ 糸をセットするときやミシンの手入れを行うときは電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。



- ・ ミシンの操作中はミシンから目を離さないでください。
- ・ 交換した針を放置しないでください。
- ・ お子様を使用するときや、お子様の近くで使用するときは特に安全に注意し、お子様から目を離さないでください。
作業途中にミシンが動く恐れがありケガの原因になります。
- ・ 針、押え、アタッチメントを交換するときは、電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
部品の劣化や変形、正常に作動しないことがあります。
- ・ 屋外や直射日光のあたる場所、高温多湿な環境、寒い場所での使用は避けてください。
- ・ ミシンの底部に油をさすときは、転倒防止金具を引き出して、ミシン本体を手で持ち支えてください。
- ・ ミシン本体を持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。
ケガの原因になります。
ベースカバー以外の部分を持つと破損したり、滑って落とし、ケガの原因になります。
- ・ 電源コードを引き抜くときは電源コードプラグを持って抜きさししてください。
コードの断線や接触不良による感電の原因になります。



- ・ 特にお子様は袋などの梱包材やミシンの付属品、ミシンから外した部品は絶対に口に入れないでください。
窒息など身体に影響を及ぼす恐れがあります。
- ・ コードを身体に巻き付けしないでください。
窒息やうっ血の恐れがあります。
- ・ 袋などの梱包材をかぶらせないでください。
窒息する恐れがあります。

取り扱いのお願い

永くご使用いただくため、次のことを守ってください。

縫製以外や業務用、職業用の目的には、ご使用にならないでください。極度の部品摩耗や破損につながります。



注意



ケガやミシンの故障が発生する恐れがあります。

■ 曲がった針を使わない

曲がった針を使うと、次のようなケガや部品の損傷につながります。

- ・ 針穴に刺さらず、折れた針が飛び、ケガの原因になります。
- ・ 押えや針板、ポビンケースに傷を付け、糸調子が合わなくなります。

■ このミシンで縫えないもの

次のものはこのミシンでは縫えません。

(針やモーターなどに過度の負担をかけ、故障の原因になるだけでなく、針折れなどの原因にもなります)

- ・ 木、プラスチック、金属などの板・ぬれた布、粗い網(漁網など)
- ・ はずみ車を手で回しても針が刺さりにくい布、厚過ぎる布。

■ 保管時の結露(つゆつき)について

寒いところから、暖かい室内に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋では、本体の表面や内部に結露(つゆつき)が起こることがあります。結露がなくなるまで、電源コードプラグをコンセント(家庭用電源)に接続しないでください。

そのままお使いになると感電や誤動作・故障の原因になります。

■ 直射日光・熱気をさける

直射日光が当たる場所や熱器具の近くには置かないでください。プラスチックのカバー部分や内部部品に変色・変形や部品劣化などの悪い影響を与えますのでご注意ください。

■ 糸絡みのとき、糸・布を引っばらない

針や部品が破損します。

■ ミシン表面のお手入れ

- ・ ベースカバーのプラスチック部分の汚れがひどいときは、中性洗剤をぬるま湯に薄め、布に浸してかたく絞り、乾いた布で仕上げてください。
- ・ ミシン本体は鋳物のため乾いた布でふきとるのみにしてください。
 - ・ ベンジン・シンナー・ワックスなどで拭かないでください。

■ 説明書で指定された以外の分解・改造はしない

ネジ類の締め忘れやゆるみにより、針折れや部品の破損の原因になります。

■ 長期間ご使用にならないとき

長期間ご使用にならないと、油の乾燥・固着などで機能に支障をきたす場合があります。

時々、ミシンを動かしてください。油の固着を防ぐことができます。

■ ミシンの上に物を載せない / ミシンの上に乗らない

ミシンに負担がかかり故障の原因になるだけでなく、ミシンが倒れたりしてケガの原因にもつながります。

■ 修理するときなどの輸送について

梱包状態によっては輸送時にミシン本体が変形する恐れがありますので、ご購入時のミシン箱や緩衝材(発泡スチロール)は保管してください。

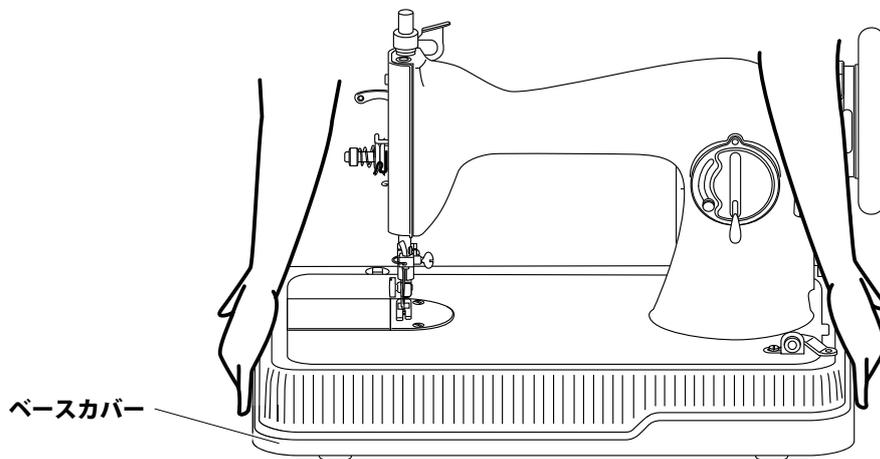
ミシンの持ち運びについて



注意



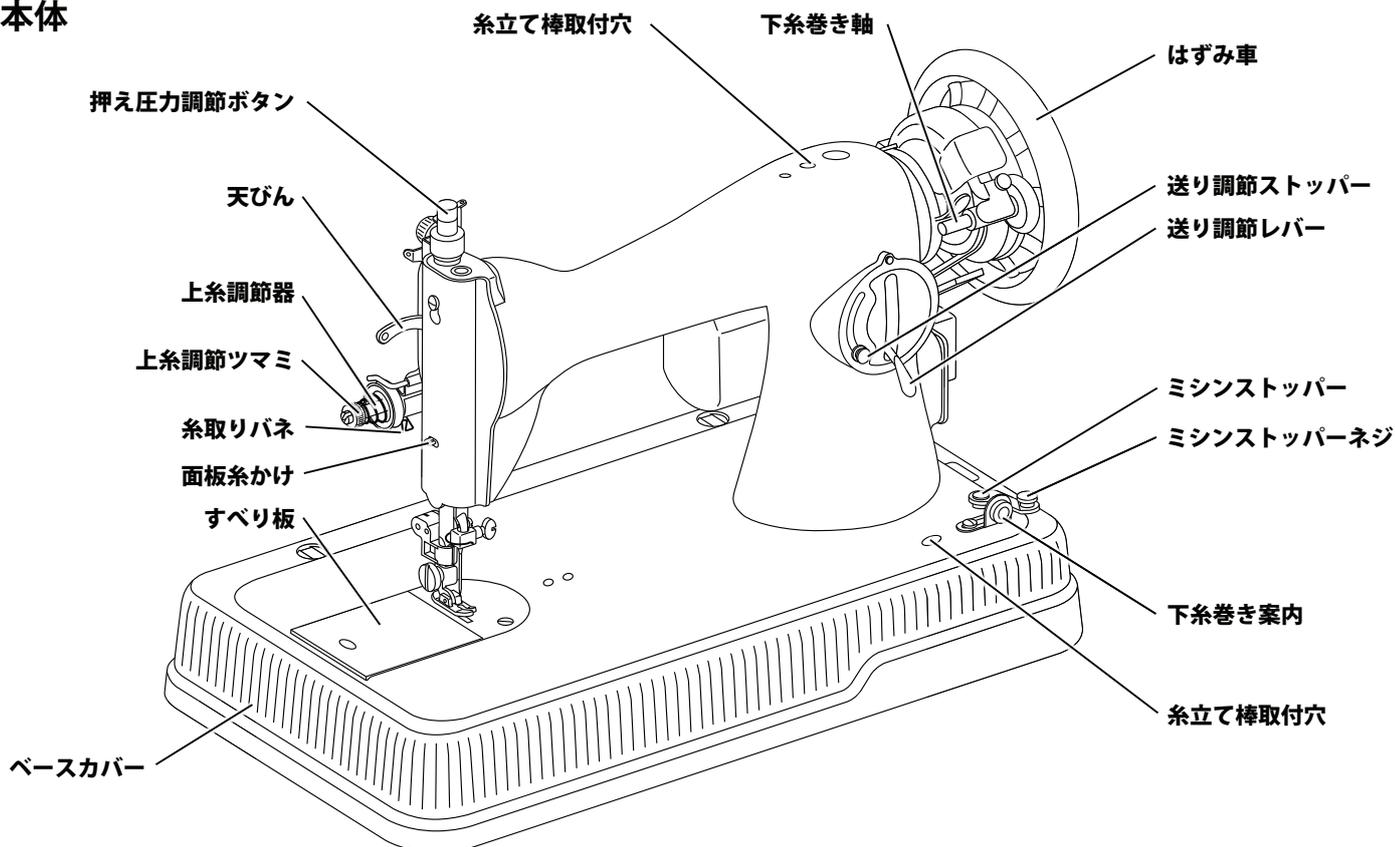
- ・ ミシン本体は重量があるので持ち運びするときは、急激・不用意な動作をしないでください。
ケガをする恐れがあります。
- ・ ミシン本体を持ち運びするときは、下図の位置を持ちます。
指定した箇所以外を持って、持ち運ばないでください。
ケガをする恐れがあります。



- 【1】『ベースカバー』の左右に指をさし込み、しっかりとつかみます。
- 【2】 ゆっくりとミシンを持ち上げます。
(ミシンを置く場所を確認します)
- 【3】 ゆっくりと水平にして所定位置に置きます。
(テーブルの場合はテーブル中央に置いてください)

各部の名まえ

● 本体



付属品

*必ず専用の付属品をご使用ください。

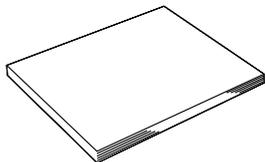


注意

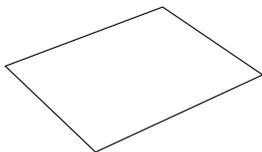


・付属品でお子様がおケガをする恐れがあります。
保管には充分ご注意ください。

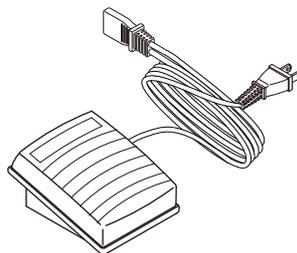
●ミシンと同梱されている付属品



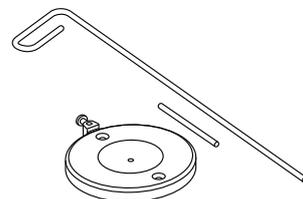
取扱説明書（本書）



使いかた早見表

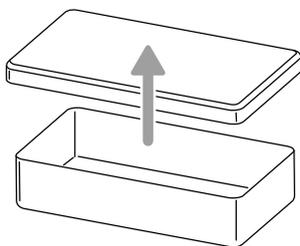


フットコントローラー
（電源コード一体型）

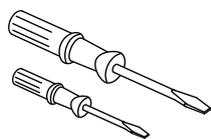


糸立て台

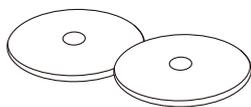
●付属品ボックス内の付属品



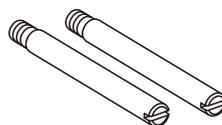
付属品ボックスを開けて、付属品を取り出します。



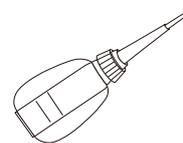
ドライバー
（大、小各1本）



フェルト 2枚



糸立て棒 2本



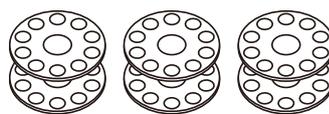
油さし



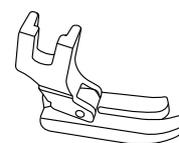
ミシン針 18番：5本
（HL × 5）



糸通し器



家庭用鉄ボビン：3個
（直径 20.5mm × 高さ 11.5mm）



スムーズ押え



TOKYO OTOKO ミシン
ブランドタグ

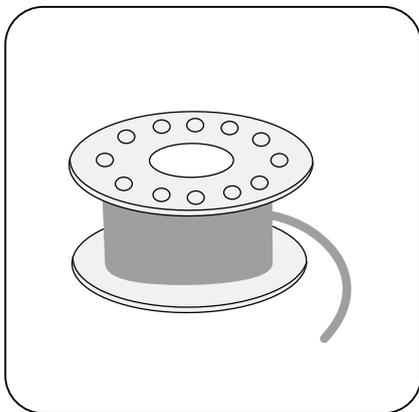
* TOKYO OTOKO ミシンブランドタグ使用例
お好みの位置にはさんでご使用ください。



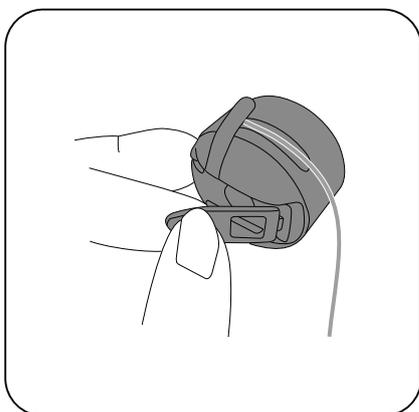
はじめてミシンをご使用されるかたへ

ミシンを使うための手順

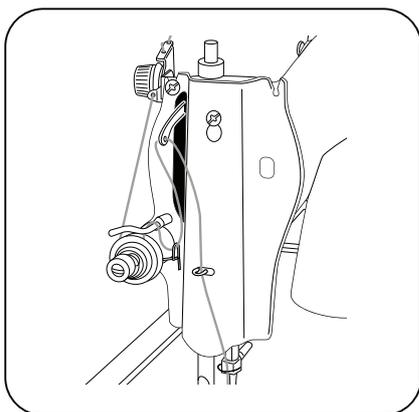
ミシンは『上糸』と『下糸』をセットして使います。
下記の手順で確認しながら、縫うための準備をしましょう。



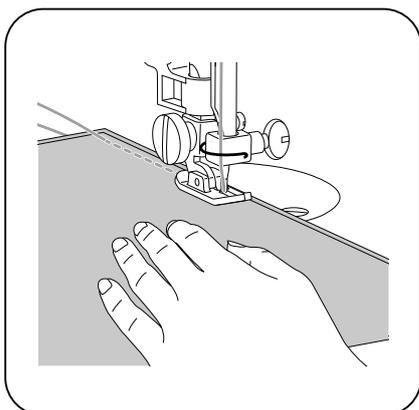
- 【1】 ボビンに下糸を巻きます。
(P13)



- 【2】 下糸を巻いたボビンをボビンケースに入れ、
ミシンにセットします。
(P20)



- 【3】 ミシンに上糸をかけ、下糸を引き上げます。
(P22、 P28)



- 【4】 縫ってみましょう。
(P31)

* 試し縫いは、縫われる布の端切れで行います。
送り長さ（縫い目の粗さ）を調節します。(P36)
糸調子も確認しましょう。(P39)

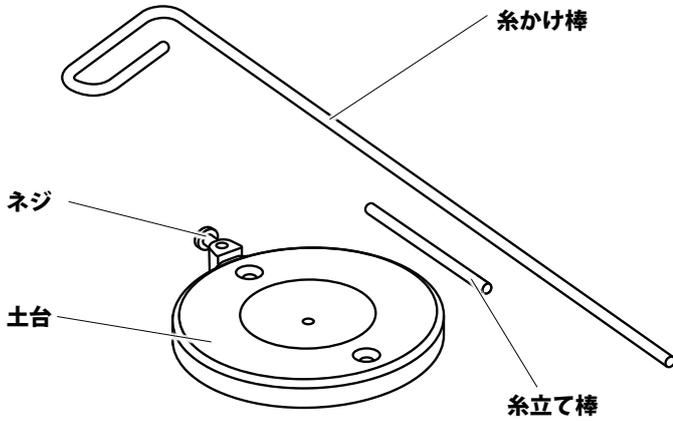
糸立て台の組み立て



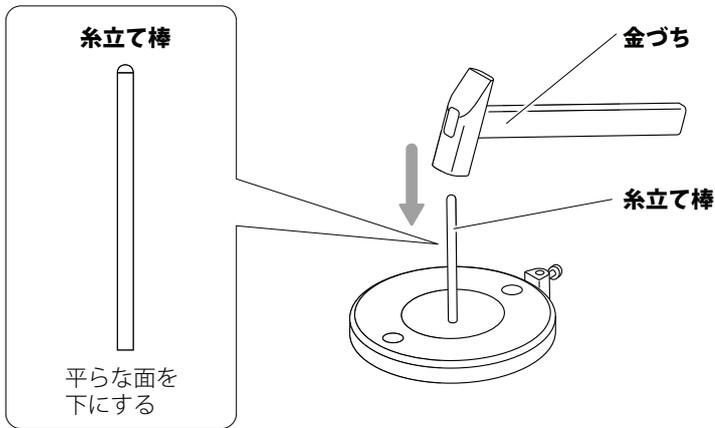
注意



- ・糸立て台を持ち運ぶときは必ず土台を持ち上げてください。
糸立て棒や糸かけ棒を持って持ち上げると抜け落ちてケガをする恐れがあります。



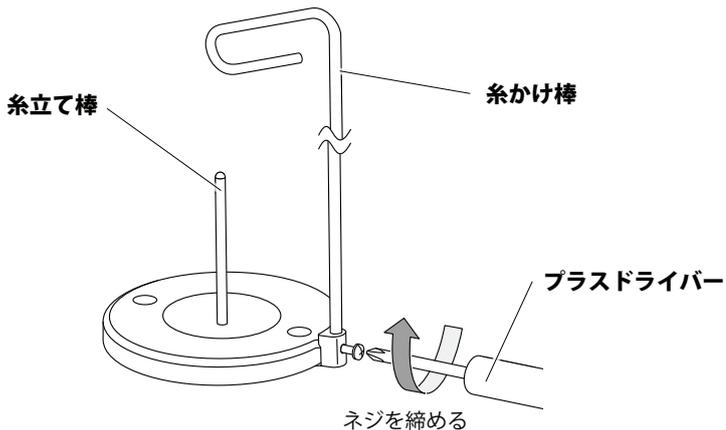
- 【1】『糸立て台』の組み立てに必要な部品を確認します。



- 【2】『土台』の中央穴に『糸立て棒』の平らな面を下に向けて、金づちで真っ直ぐ打ち込んでください。

*『糸立て棒』を打ち込み過ぎると『土台』が割れる場合があります。

*『金づち』は付属しておりません。



- 【3】『土台』の穴に糸かけ棒をさし込み、ネジを『プラスドライバー』で締めて固定します。

*『プラスドライバー』は付属しておりません。

*『糸かけ棒』の糸かけ部分の向きを『糸立て棒』に合わせます。

電源を入れる



警告



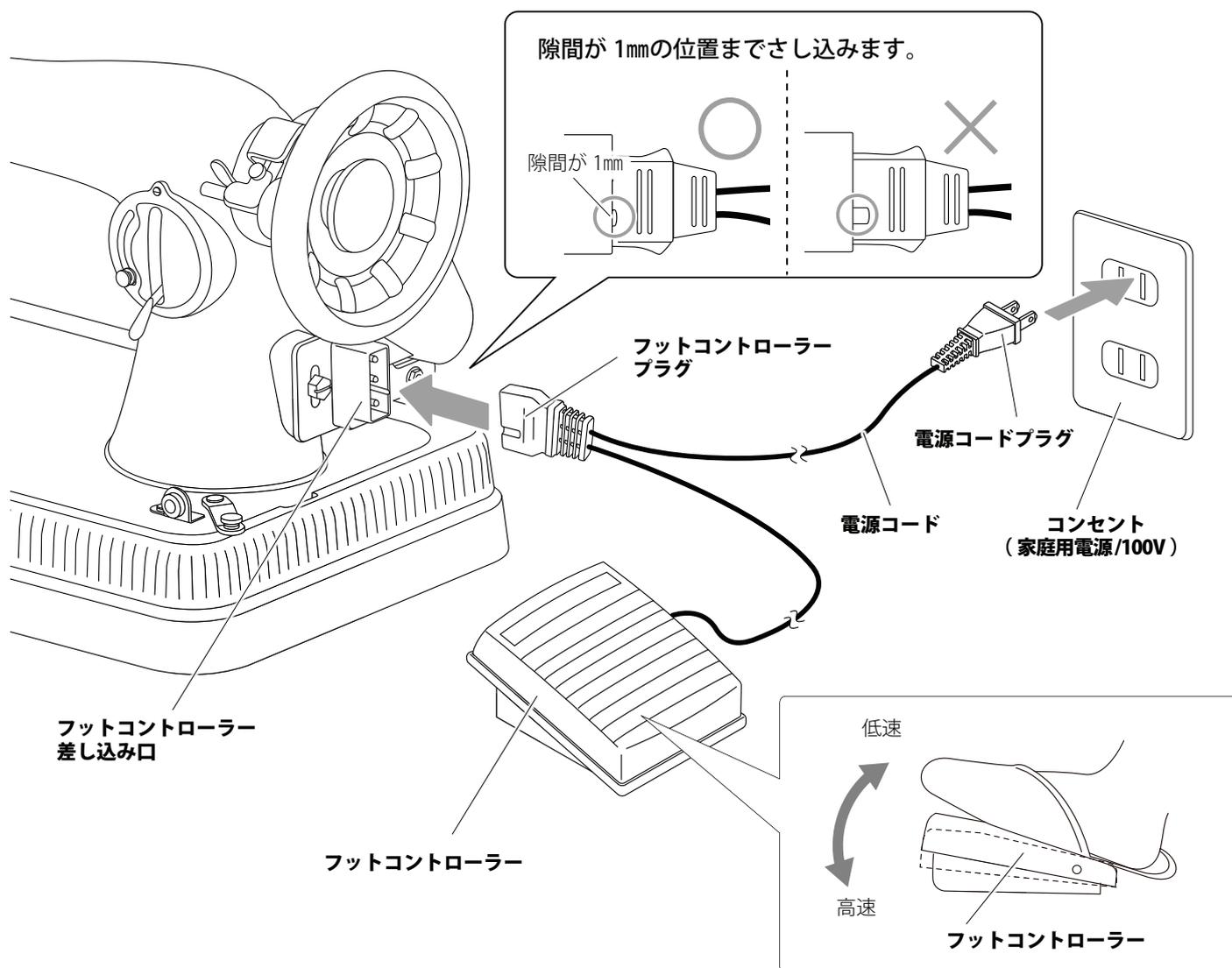
- ・電源コードはプラグ部分を持って抜きさしする。
電源コードを引っ張ると、電源コード部分が破損し、死亡、火災、感電、機器故障の原因になります。



注意



- ・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
- ・はずみ車、天びん、針周辺に手や物を置かない。
突然動くときケガをする恐れがあります。



- 【1】『フットコントローラープラグ』をミシン側の『フットコントローラー差し込み口』に向きを合わせて奥までさし込みます。
- 【2】コンセント (家庭用電源 /100V) に『電源コードプラグ』をさし込みます。
- 【3】『フットコントローラー』を少しずつ踏み込むと、ミシンは動き始めます。
- 【4】『フットコントローラー』を踏み込むほど、ミシンのスピードは速くなります。
- 【5】『フットコントローラー』から足を離すと、ミシンは停止します。

* このミシンの特性上、高速になるほど力が強くなります。

厚い布や固い布などを縫うときは『フットコントローラー』の踏み込み量で調節してください。

* 使用後は、必ず『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。

* 専用フットコントローラー 『型式：YC-480 定格：AC100V』

縫う前の準備：ボビンの取り出しかた



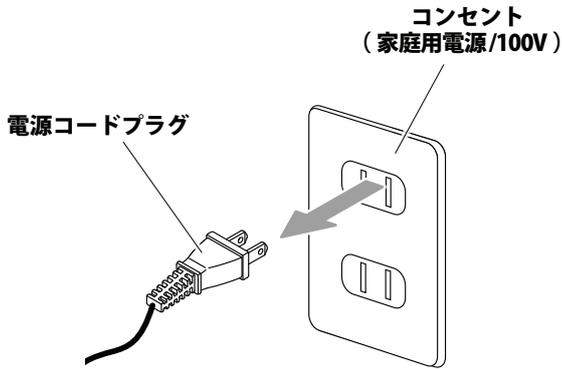
注意



・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。



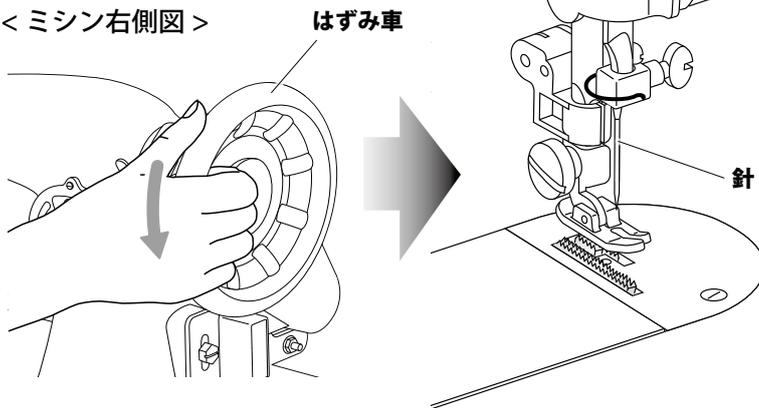
・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。



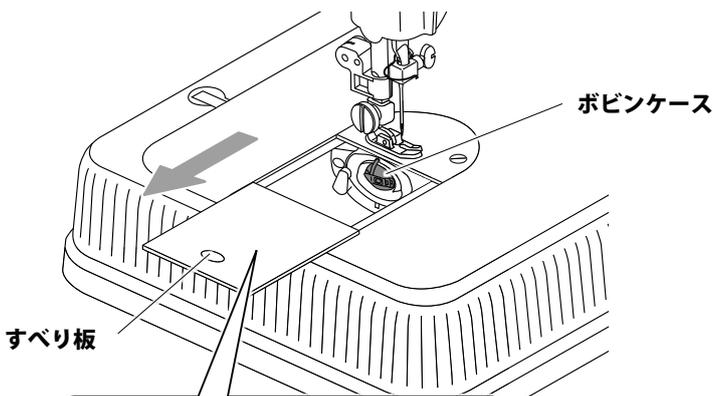
【1】『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。



< ミシン右側図 >



【2】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。



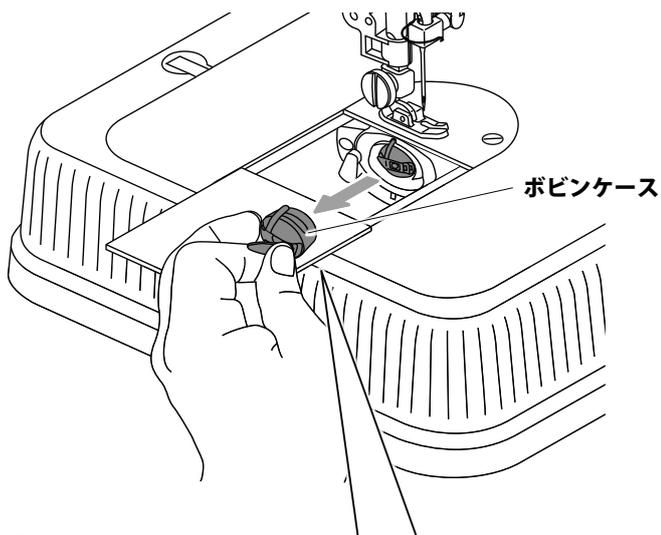
【3】『すべり板』を開きます。
『すべり板』は本体から外れないように、
開く途中で止めます。

*『すべり板』が外れないように
注意して開きます。
もし、『すべり板』を引き過ぎて本体から
外れた場合は P53 のすべり板の取り付けを
ご参照ください。



注意

すべり板を開き過ぎないように注意する。



【4】『ボビンケースのつまミ』をおこし、
つまんだまま引き抜きます。

*もし、『ボビンケース』が取り出しにくい場合は
P48 のミシン本体を倒すをご参照ください。

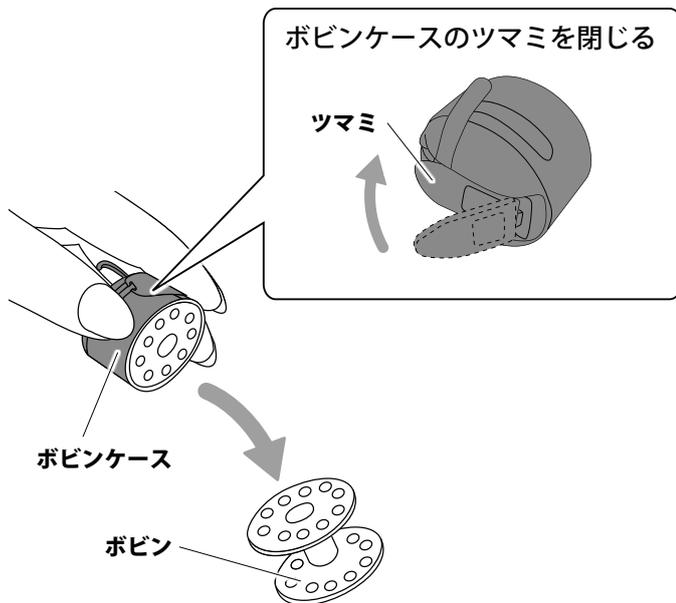
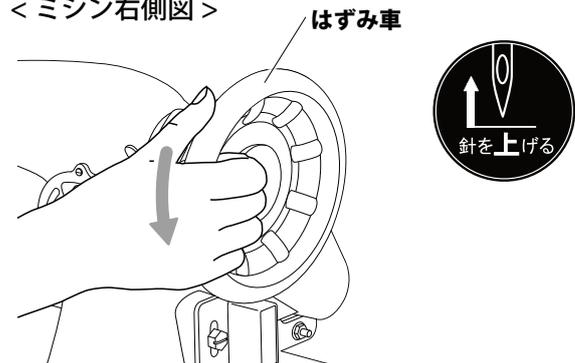


注意

針が下がっていると、『ボビンケース』に引っかかり
取り外すことができません。

『はずみ車』を手前に回して、針を上げてください。

< ミシン右側図 >



【5】『ボビンケースのつまミ』を閉じると中の
『ボビン』を取り出せます。

* 次の工程で『ボビン』に糸を巻いた後、
『ボビンケース』に『ボビン』をセットします。

縫う前の準備：下糸巻き軸にボビンをセットする



注意



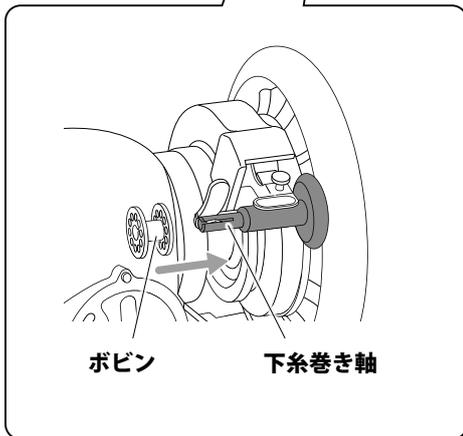
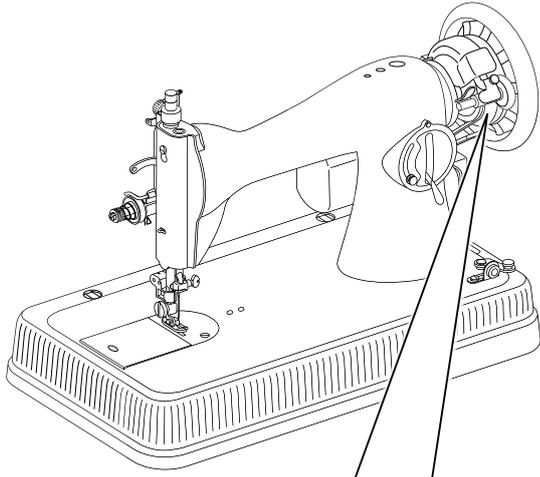
・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。



・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。

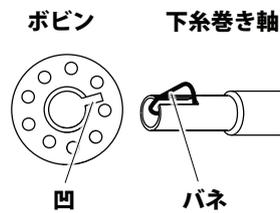
※ 下糸を巻くときに針を止めることはできません。

* ボビンは家庭用鉄ボビン（高さ 11.5mm×直径 20.5mm）をご使用ください。
（異なるボビンを使用するとミシンの故障の原因になる恐れがあります）

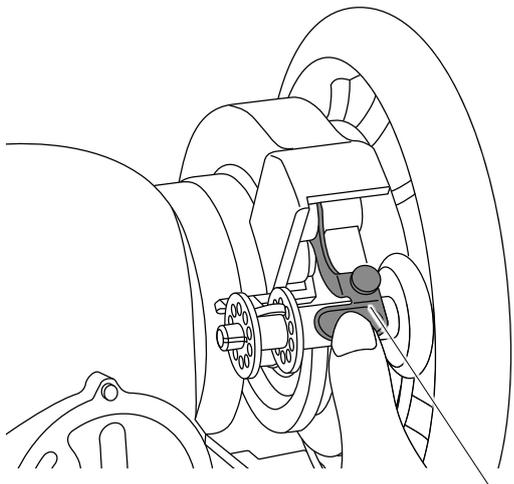


【1】『下糸巻き軸』に『ボビン』をさし込みます。

ポイント！



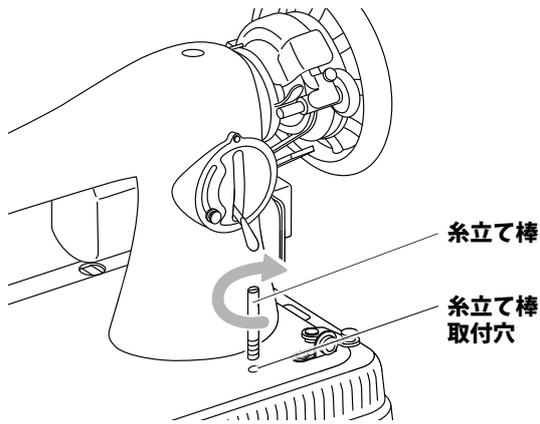
『ボビンの凹』と『下糸巻き軸のバネ』の位置を合わせます。



【2】『下糸巻きノブ』を強く押します。

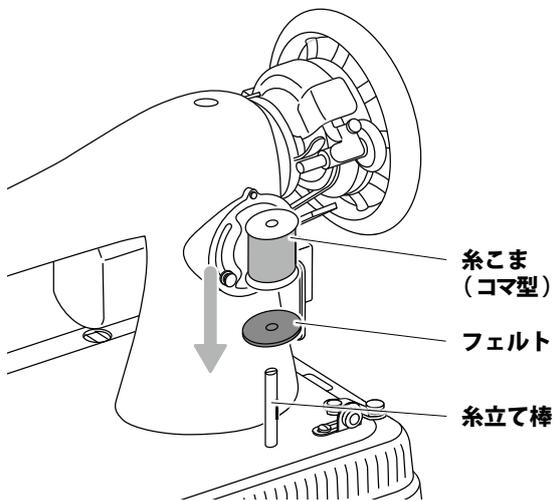
● ミシン本体の糸立て棒で下糸を巻く場合

* ミシン本体の『糸立て棒』を使用する場合、コマ型の糸こまを使用してください。

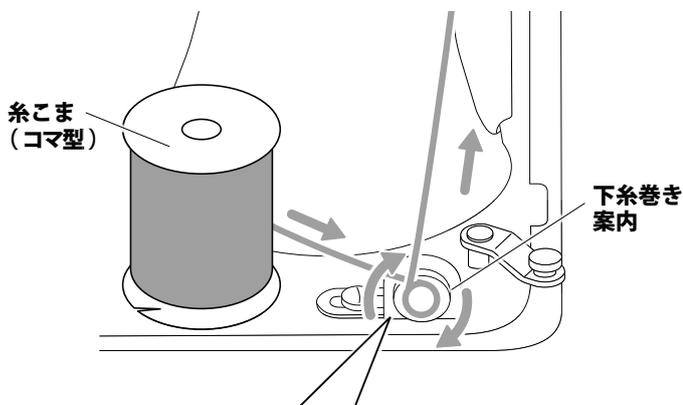
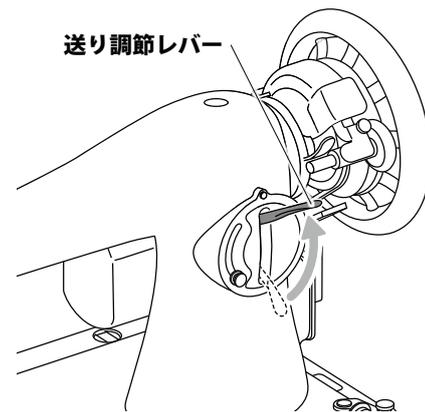


【1】『糸立て棒』を『糸立て棒取付穴』に時計回りに取り付けます。

【2】『糸立て棒』に『フェルト』、『糸こま』の順番に入れます。



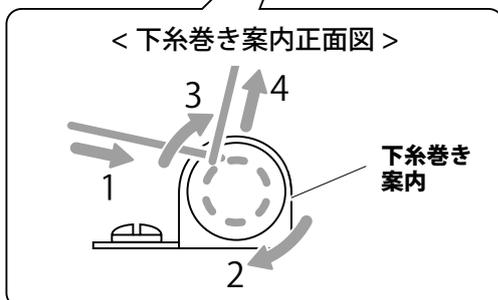
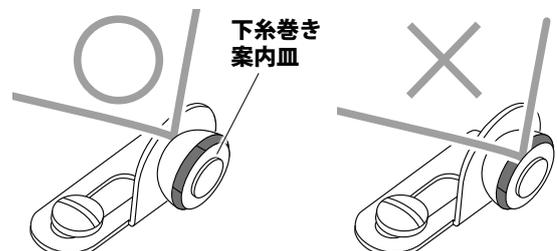
! **注意** 『糸こま』をセットしにくい場合は、『送り調節レバー』を上げます。



【3】『下糸巻き案内』に糸を時計回りに一周巻きつけます。

! **注意**

糸は『下糸巻き案内皿』の根元に巻いてください。正しく糸を巻けていないとポビンに糸が巻けません。

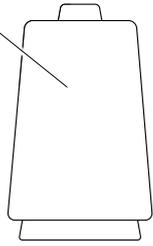


● 糸立て台で下糸を巻く場合

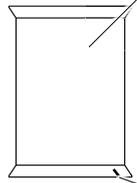
* ミシン本体の『糸立て棒』を使用する場合、『糸立て台』の工程は不要です。

* 『糸立て台』はコーン型又はコマ型のどちらも使用できます。

糸こま
(コーン型)

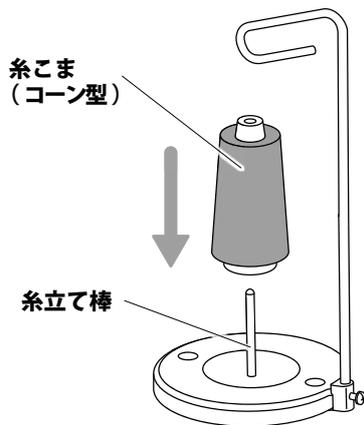


糸こま
(コマ型)

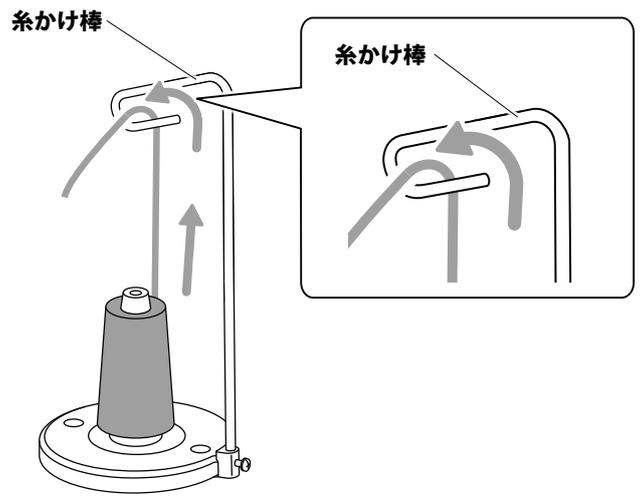


* 『糸止めカット』がある場合、必ず下に向けてください。

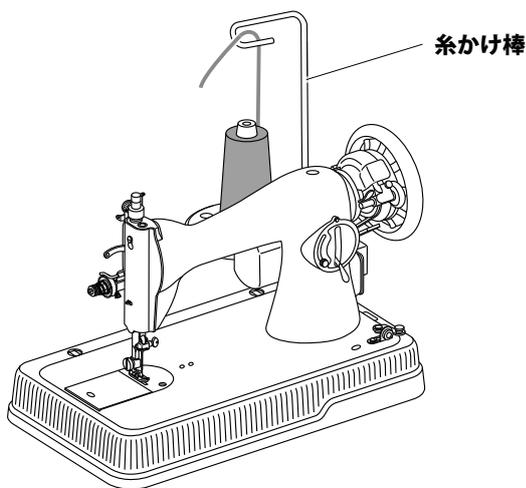
糸止めカット



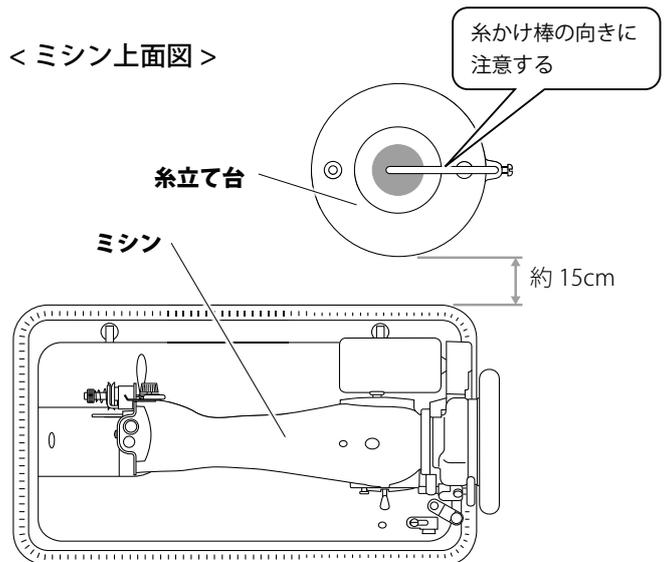
【1】『糸立て台』の『糸立て棒』に『糸こま』を入れます。



【2】『糸かけ棒』に糸をかけます。



< ミシン上面図 >



【3】『糸立て台』をミシンの右背面側から約15cm離れた場所に置きます。



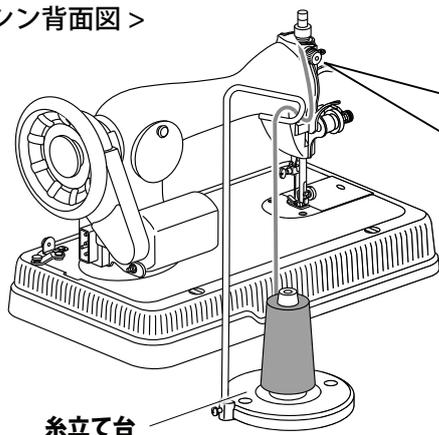
注意

- ・ 『はずみ車』の近くに『糸立て台』を置かないでください。糸が『はずみ車』に絡まり、ミシンの故障の原因になります。
- ・ 『糸かけ棒』の向きに注意してください。

● 糸立て台で下糸を巻く場合

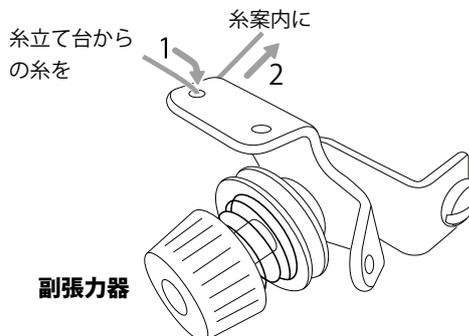
* ミシン本体の『糸立て棒』を使用する場合、『糸立て台』の工程は不要です。

< ミシン背面図 >

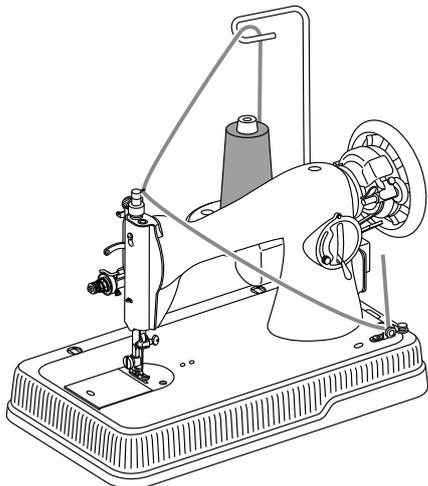


【4】 『副張力器』の一つ目の穴に糸をかけます。

< ミシン背面図 >

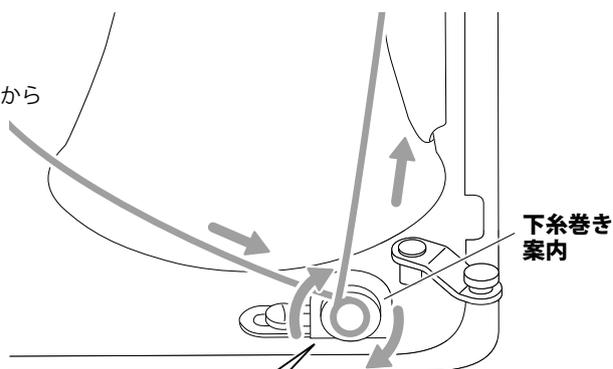


< ミシン正面図 >



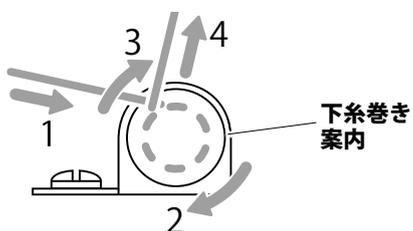
【5】 糸を『副張力器』から『下糸巻き案内』まで持っていき、『下糸巻き案内』を時計回りに一周巻きつけます。

副張力器から



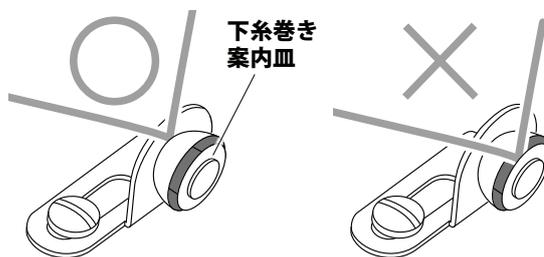
下糸巻き案内

< 下糸巻き案内正面図 >



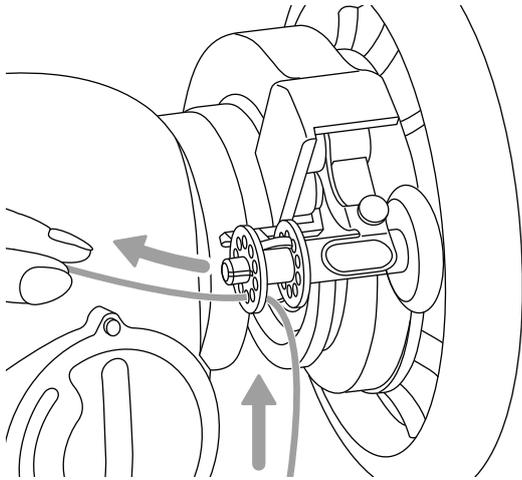
⚠ 注意

糸は『下糸巻き案内皿』の根元に巻いてください。
正しく糸を巻けていないとボビンに糸が巻けません。



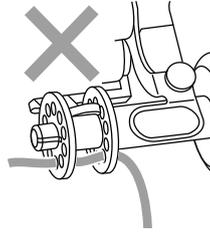
縫う前の準備：下糸の巻きかた

【1】『下糸巻き案内』からの糸を『ボビン』の穴に内側から左側へ糸を通します。

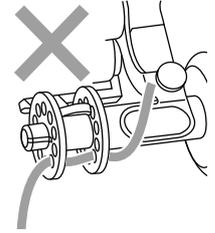


⚠ 注意

『ボビン』の糸の通しかたを間違えると正しく糸が巻けません。

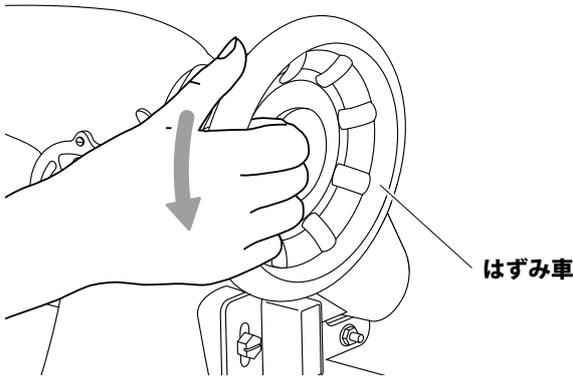


『ボビン』の右側から糸を通す



『ボビン』の左側から糸を通す

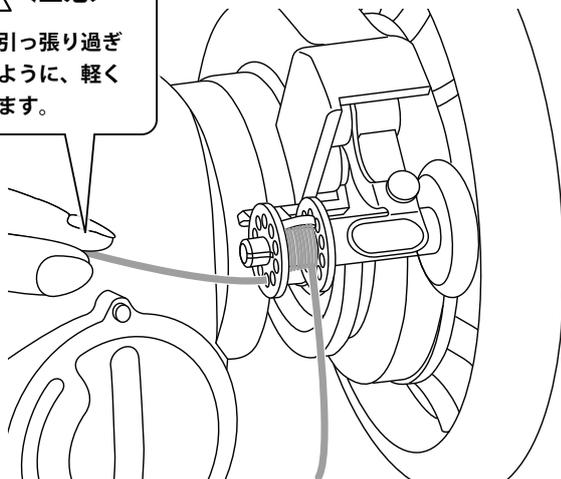
< ミシン右側図 >



【2】糸先を軽く持ったまま『はずみ車』を手前に回して、『ボビン』の端まで糸を巻き付けます。

⚠ 注意

糸を引っ張り過ぎないように、軽く持ちます。

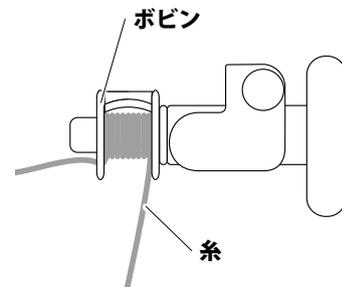


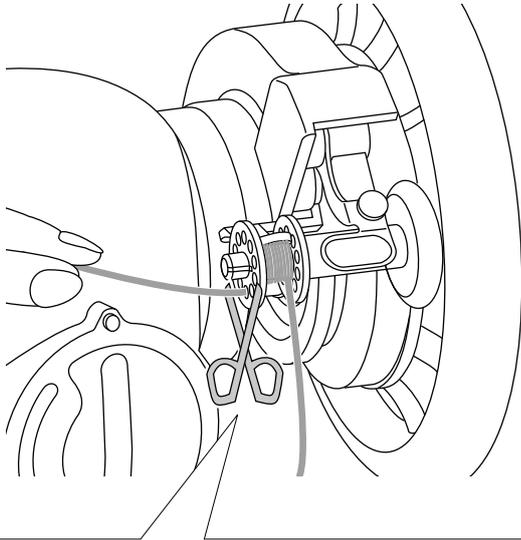
ポイント！

『ボビン』の糸が空回りする場合

* 糸の巻きが少ないと『ボビン』に糸が巻けず空回りする場合があります。

糸は『ボビン』の端まで巻きます。

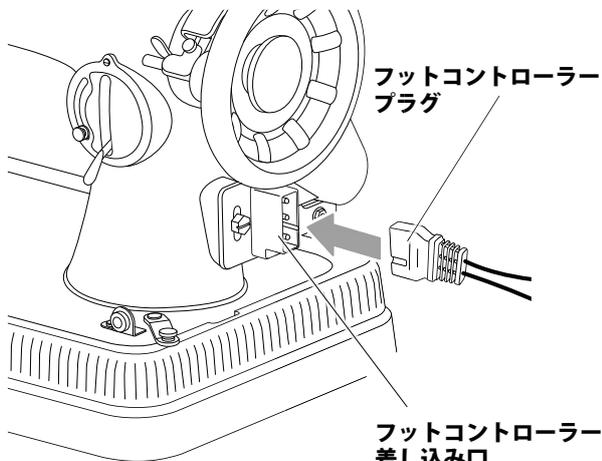




- 【3】『ボビン』に糸を端まで巻いたら、
持っていた糸を『ボビン』の穴から
残さず切ります。

⚠ 注意 糸の端が下記のように残っていると、糸がカマ内部に引っ掛かり、糸絡みの原因になります。

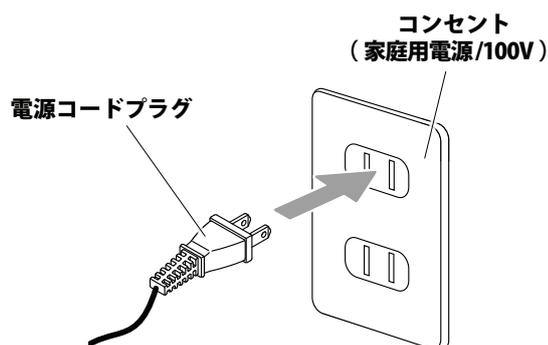
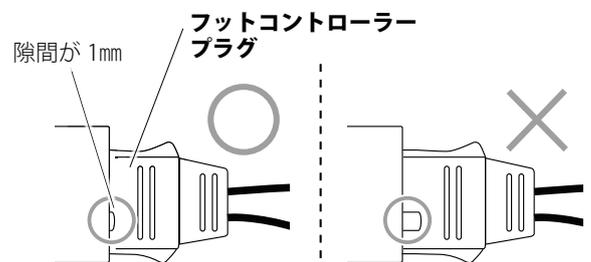
糸が残っている 糸の輪が出来ている 糸がゆるい 糸を巻き過ぎている サイズが異なる



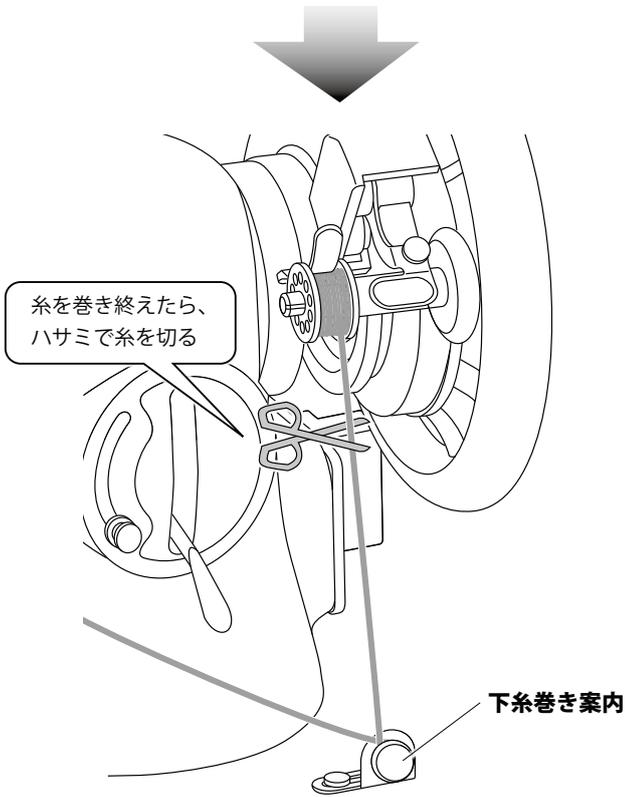
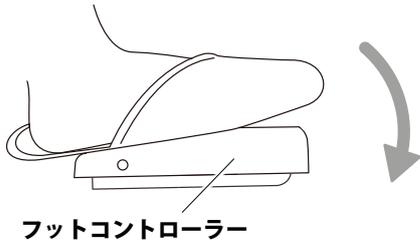
- 【4】『フットコントローラープラグ』を
ミシン側の『フットコントローラー
差し込み口』に向きを合わせて
奥までさし込みます。

⚠ 注意

『フットコントローラープラグ』の
隙間が1mmの位置までさし込みます。



- 【5】コンセントに『電源コードプラグ』を
さし込みます。



【6】『フットコントローラー』を深く踏み込み、糸を巻きます。糸が巻き終わったら『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。

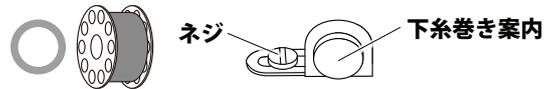
*『ボビン』に最後まで糸を巻くと、『ボビン回転ストッパー』が上がり『ボビン』の回転が止まります。

【7】糸を切り、『ボビン』を抜きます。

ポイント!

『ボビン』が均等に巻けない場合

『ボビン』の糸が均等に巻けないときは、『下糸巻き案内』を左右に調整します。



●『ボビン』の糸が左に片寄る場合

『下糸巻き案内のネジ』をゆるめて『下糸巻き案内』を右に調整します。



●『ボビン』の糸が右に片寄る場合

『下糸巻き案内のネジ』をゆるめて『下糸巻き案内』を左に調整します。



注意

『フットコントローラー』を踏み込んでいる間、針や『天びん』は動いているので手や物を置かないでください。
ケガをする恐れがあります。



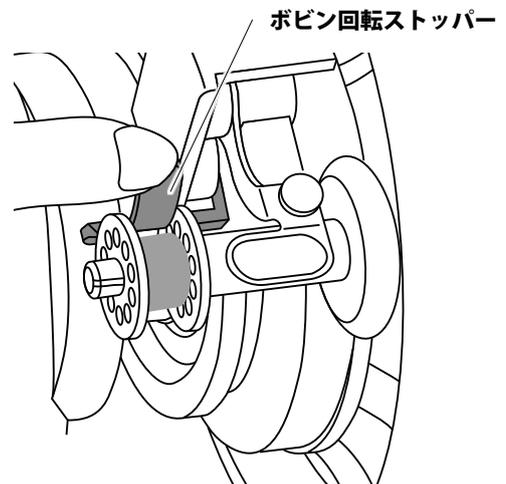
注意

下糸を巻くときは、『押え上げレバー』を上げて『押え』を上げてください。
『押え』に傷がつく恐れがあります。
P41の押え上げレバーをご参照ください。

ポイント!

『ボビン』の糸を最後まで巻かない場合

『フットコントローラー』から足を離して、『ボビン回転ストッパー』を上げて、糸を切り『ボビン』を抜きます。



縫う前の準備：下糸のセット



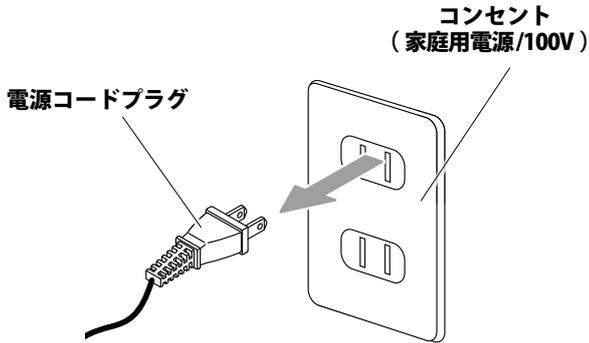
注意



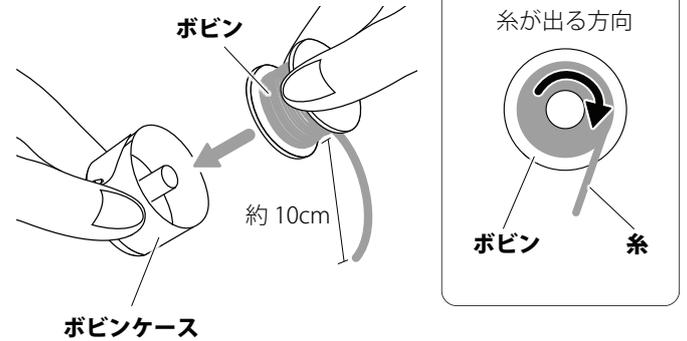
・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。



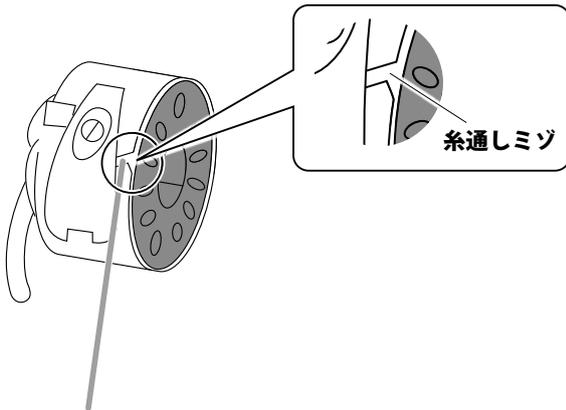
・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。



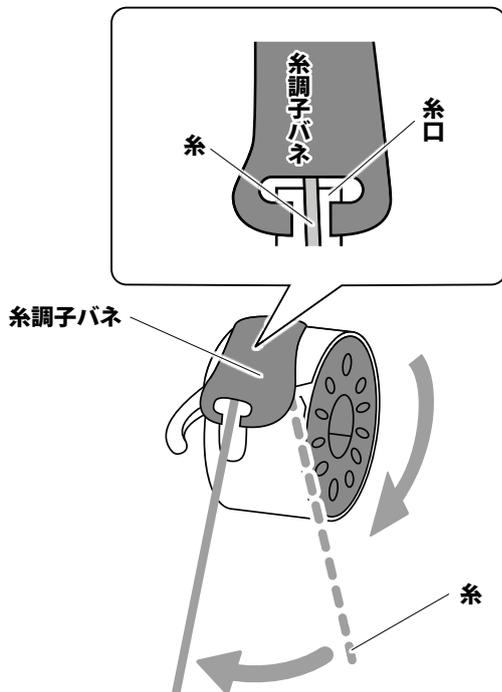
【1】『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。



【2】『ボビン』から糸を10cm程引き出し、糸が右回りになるように『ボビンケース』に入れます。

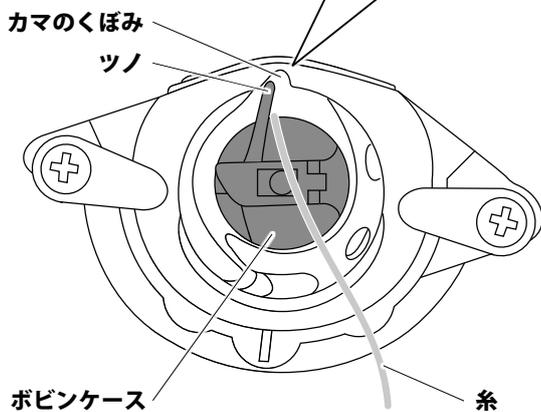
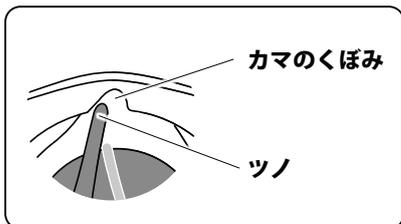
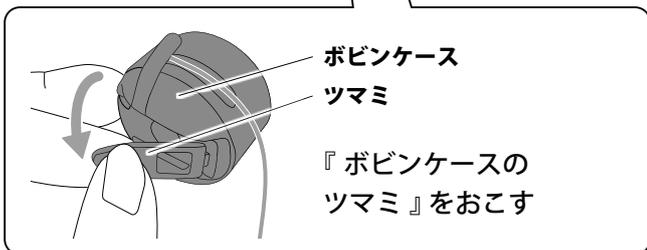
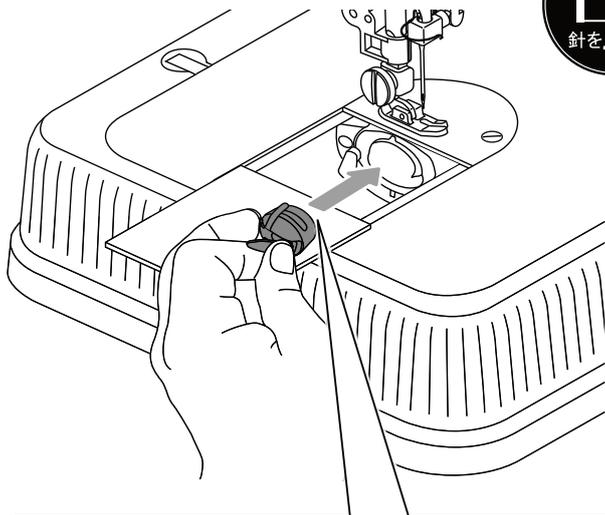


【3】糸の端を持ち、『ボビンケース』の『糸通しミゾ』に入れます。



【4】糸を左に引き、『糸調子バネ』の下に強く引っ張り通して『糸口』まで引きます。

● ボビンケースをカマにセット



【5】『はずみ車』を手前に回して針を上げて『ボビンケースのツマミ』をおこして持ち、カマにセットします。

*もし、『ボビンケース』がセットしにくい場合や『ボビンケース』を落下させてしまった場合はP48のミシン本体を倒すをご参照ください。

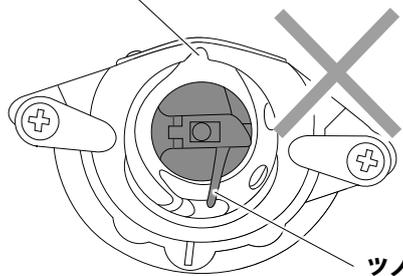
【6】『ツノ』を『カマのくぼみ』に入るように合わせ、奥までさし込みます。

【7】『ボビンケース』が固定されたことを確認して糸をたらしておきます。

⚠ 注意

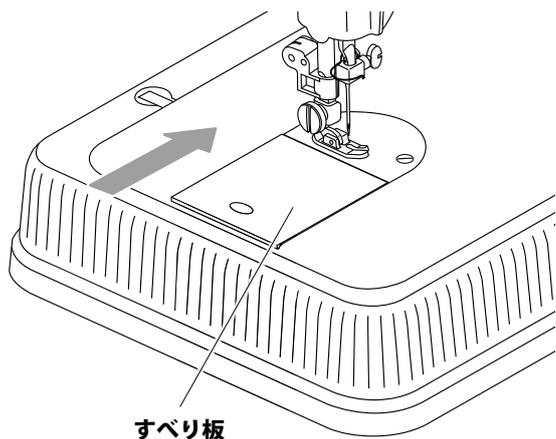
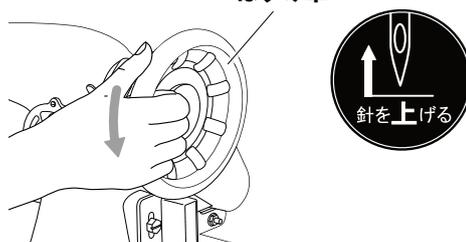
・『ボビンケース』の『ツノ』が『カマのくぼみ』に入っていない場合、縫うときに針が『ボビンケース』に干渉して動かなくなる恐れがあります。

カマのくぼみ



・針が下がっていると『ボビンケース』が入りません。必ず針を上げてからセットしてください。

< ミシン右側図 > はずみ車



【8】『すべり板』を閉じます。

*糸は『すべり板』から出さずに、内に入れておいてください。

縫う前の準備：上糸のかけかた



注意



・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。

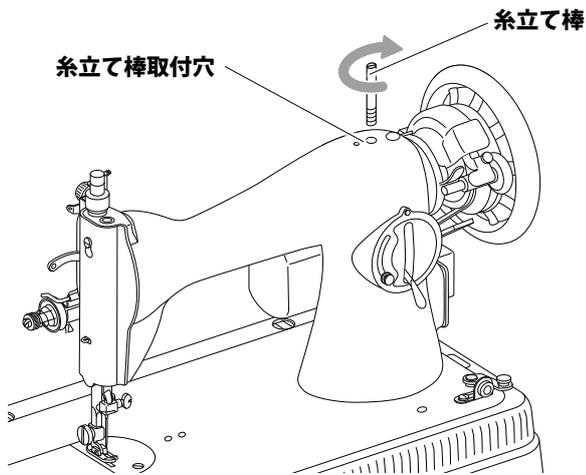


・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。

● ミシン本体の糸立て棒を使用する場合

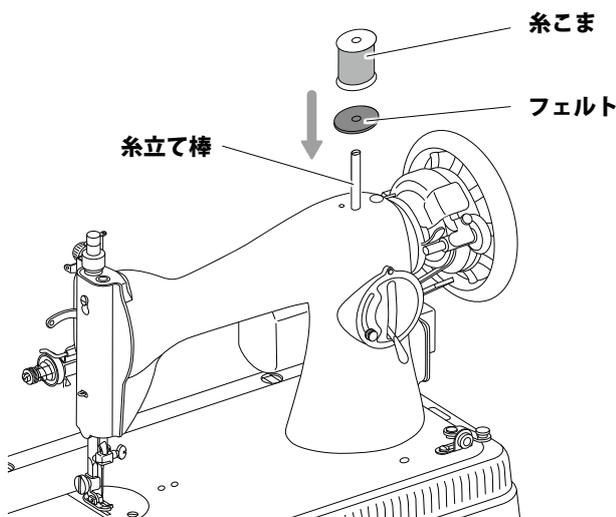
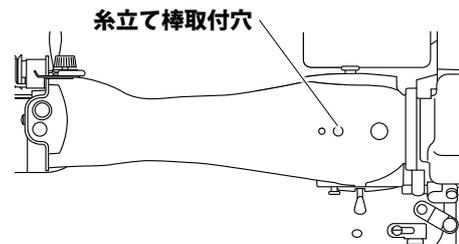
* ミシン本体の『糸立て棒』を使用する場合、コマ型の糸こまを使用してください。

【1】『糸立て棒』を『糸立て棒取付穴』に時計回りで取り付けます。



注意

真ん中の穴が『糸立て棒取付穴』です。



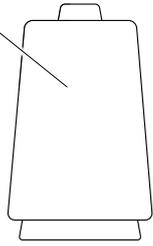
【2】『糸立て棒』に『フェルト』、『糸こま』の順番に入れます。

● 糸立て台を使用する場合

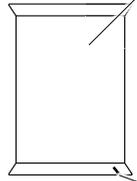
* ミシン本体の『糸立て棒』を使用する場合、『糸立て台』の工程は不要です。

* 『糸立て台』はコーン型又はコマ型のどちらも使用できます。

糸こま
(コーン型)

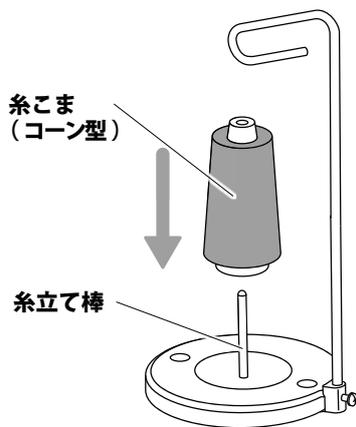


糸こま
(コマ型)

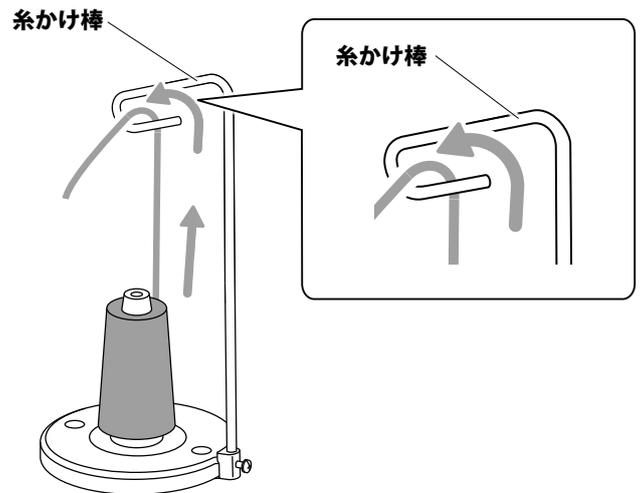


* 『糸止めカット』がある場合、必ず下に向けてください。

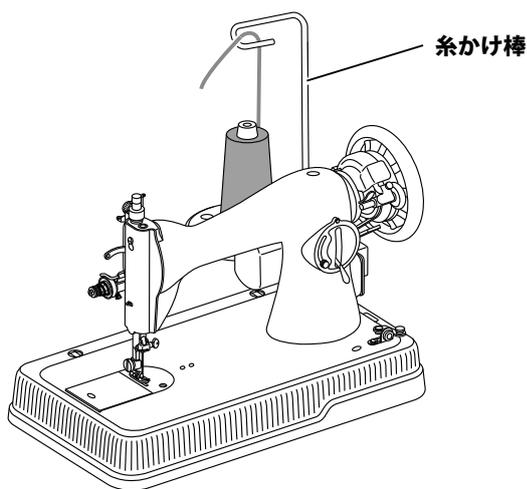
糸止めカット



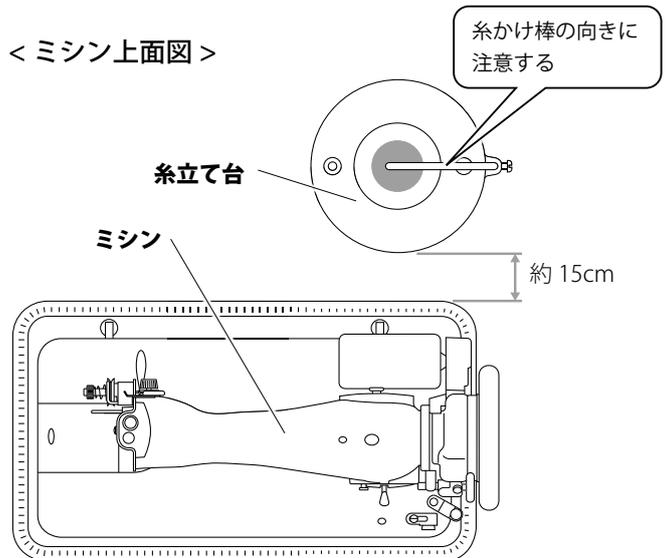
【1】『糸立て台』の『糸立て棒』に『糸こま』を入れます。



【2】『糸かけ棒』に糸をかけます。



< ミシン上面図 >

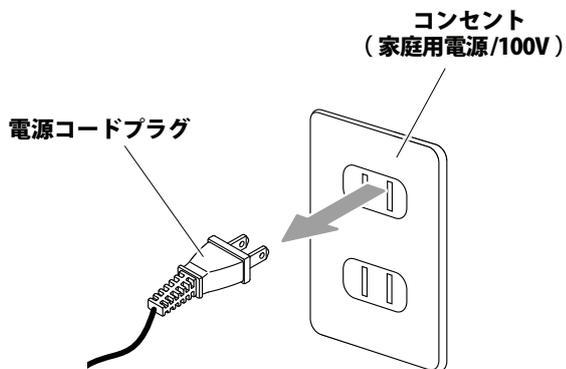


【3】『糸立て台』をミシンの右背面側から約 15cm 離れた場所に置きます。



注意

- ・ 『はずみ車』の近くに『糸立て台』を置かないでください。糸が『はずみ車』に絡まり、ミシンの故障の原因になります。
- ・ 『糸かけ棒』の向きに注意してください。



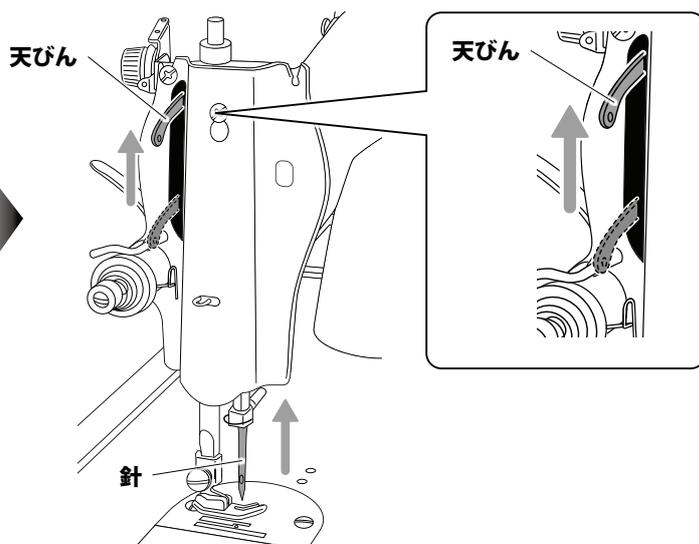
【1】『電源コードプラグ』をコンセントから抜いてください。



< ミシン右側図 >

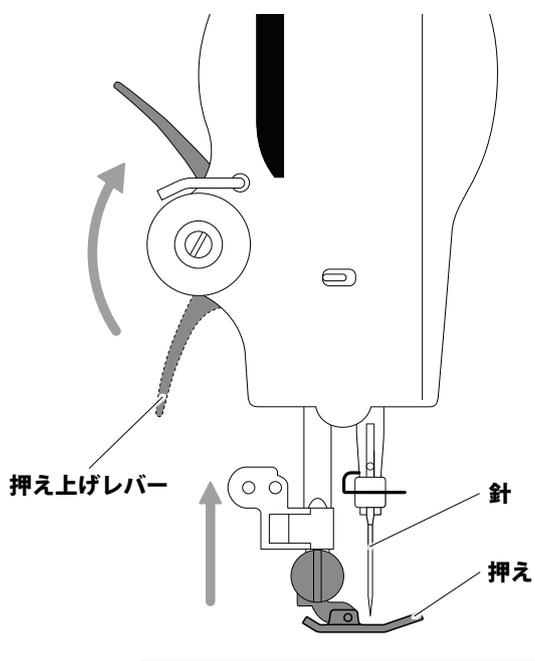


< ミシン左側図 >



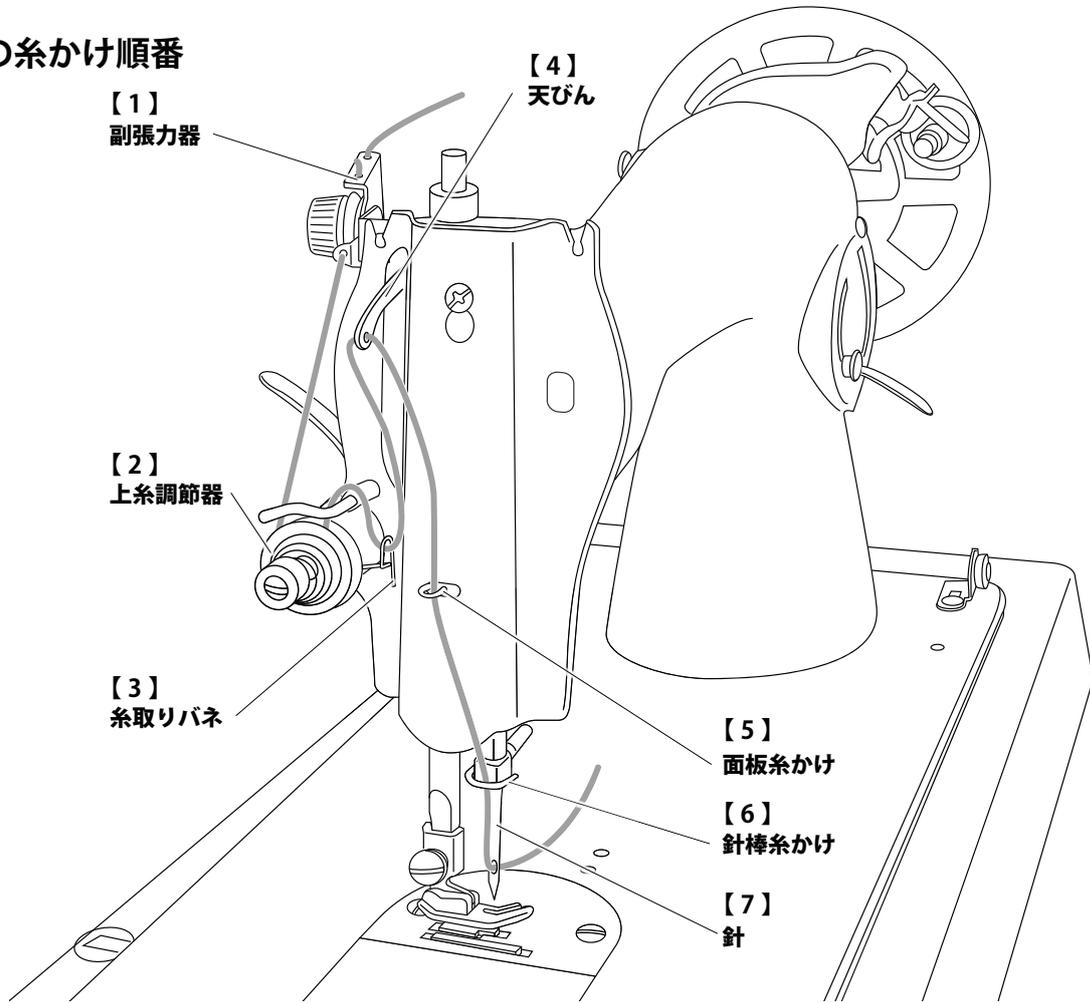
【2】『はずみ車』を手前に回し、針と『天びん』を一番上にします。

< ミシン左側図 >



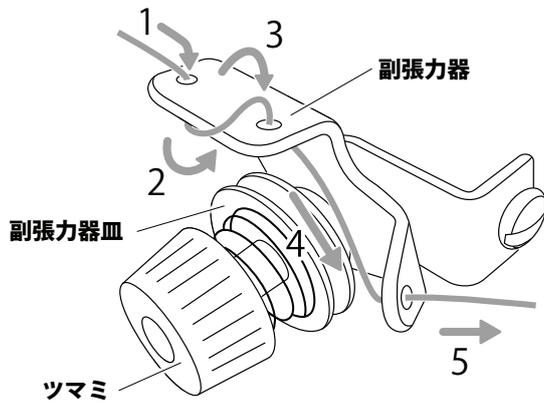
【3】『押え上げレバー』を上げて、『押え』を上げます。
*『押え』を上げることで『上糸調節器皿』が開き、正しく糸をかけることができます。

● 上糸の糸かけ順番



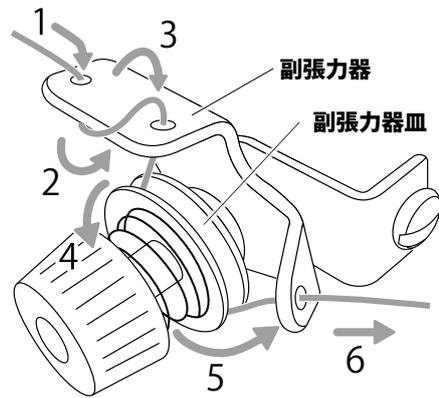
【1】『副張力器』に糸をかけます。*『副張力器』のつまみは回さないでください。

● #60、#90 などの普通布用や薄布用糸を使用する場合

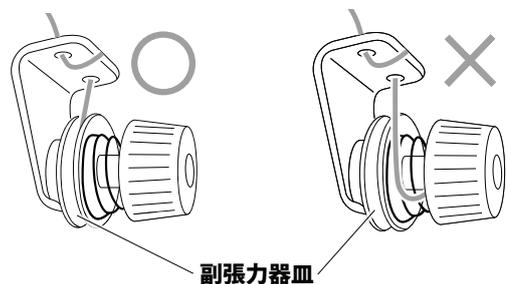


*『副張力器皿』には糸をかけません。

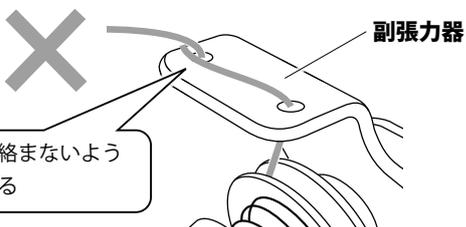
● #8、#20、#30 などの厚布用糸を使用する場合



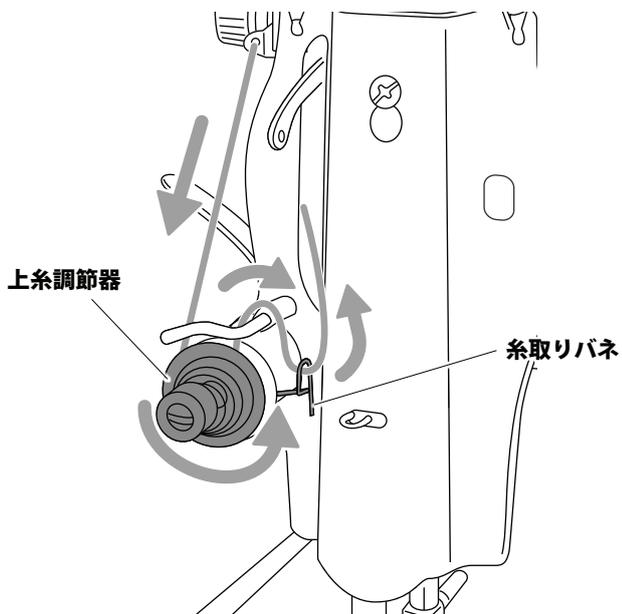
注意 #8、#20、#30 などの厚布用糸を使用する場合、『副張力器皿』2枚の間にしっかり糸を入れます。



注意 『副張力器』にかけるとき、糸が絡まないようにしてください。



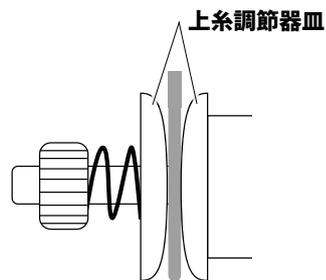
糸が絡まないようにする



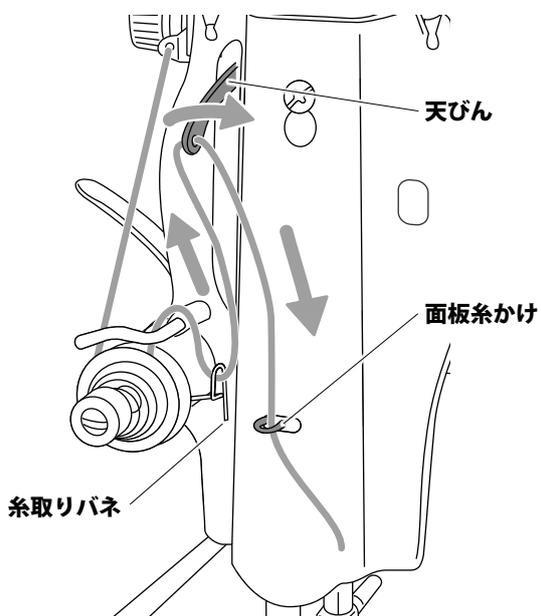
【2】『上糸調節器』に糸をかけます。

ポイント！

『上糸調節器皿』の間に糸をかけます。



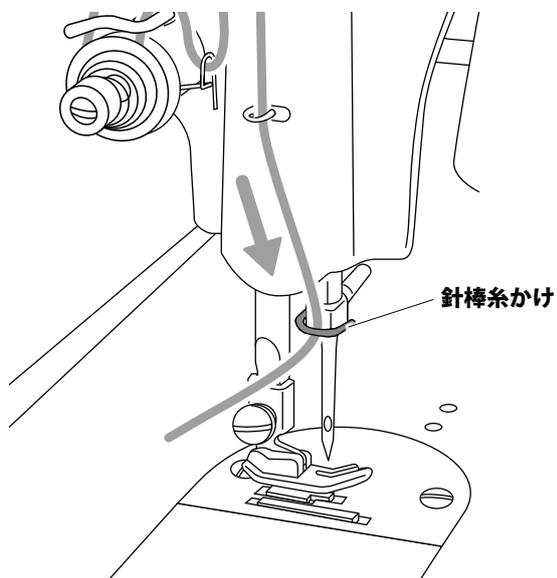
【3】『糸取りバネ』に糸をかけます。



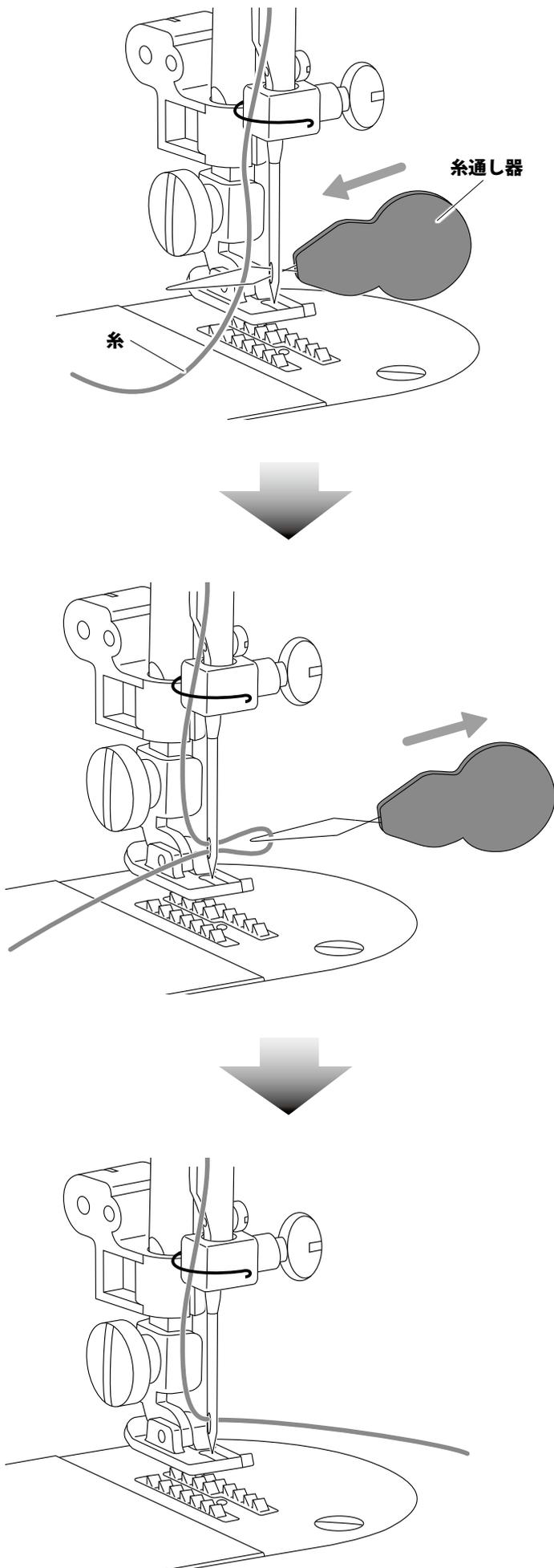
【4】『天びん』に糸を通します。

*『天びん』に糸を通してるとき、
『糸取りバネ』から糸が外れる恐れが
あるのでもう一度確認してください。

【5】 面板糸かけに糸を通します。



【6】『針棒糸かけ』に糸を通します。



【7】 針の右側から『糸通し器』を通します。

『糸通し器』の上から糸を通し、
『糸通し器』を右側に引き抜きます。

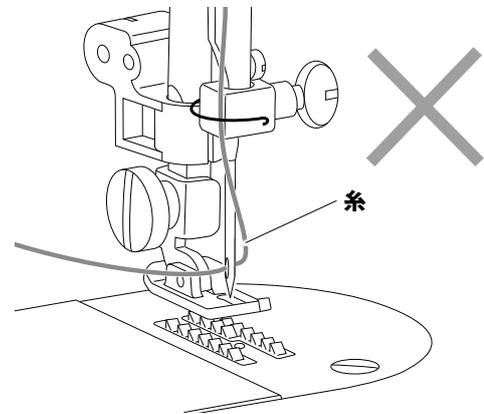
*『糸通し器』が使いにくいときは
『押え』を下げてください。

*『糸通し器』を使用しない場合は、
針穴に【左側から右側】に糸を通します。

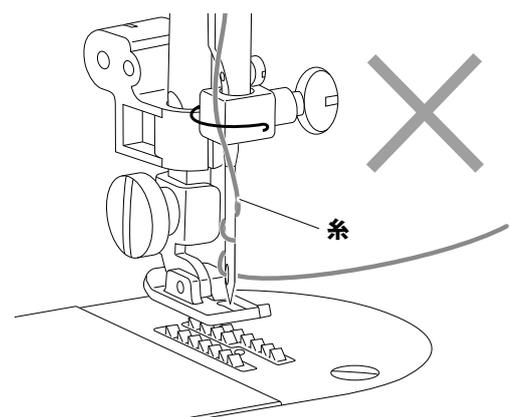


注意

糸を通す方向が逆の場合、正しく縫えません。



針に糸が巻きついていると正しく縫えません。



注意

糸をかけている途中で外れている恐れがあるので【1】～【7】に上糸がかかっているか、もう一度確認してください。

縫う前の準備：下糸の引き上げかた



注意

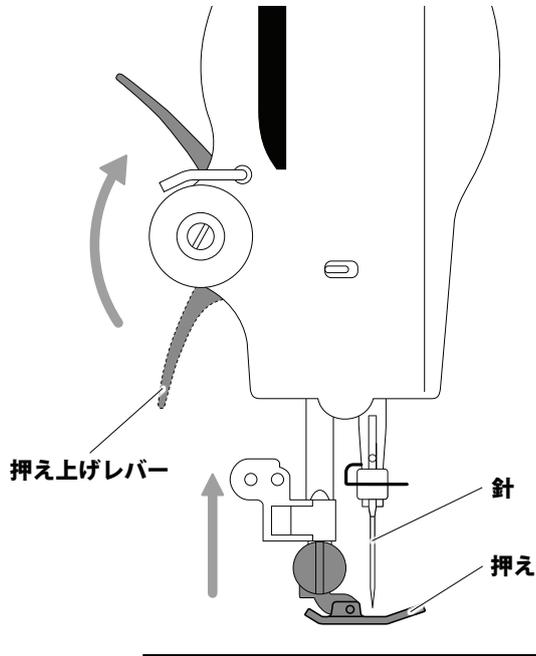


・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。

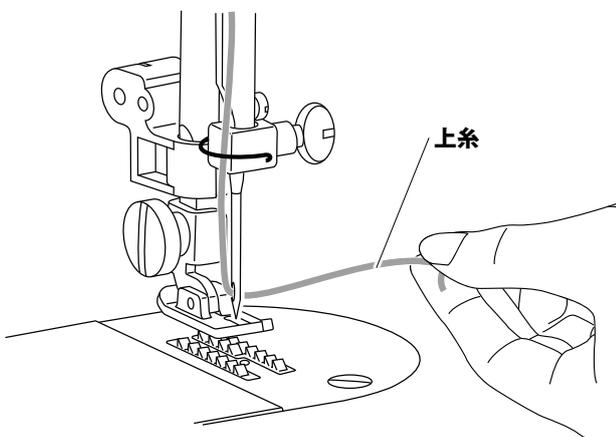


・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。

< ミシン左側図 >

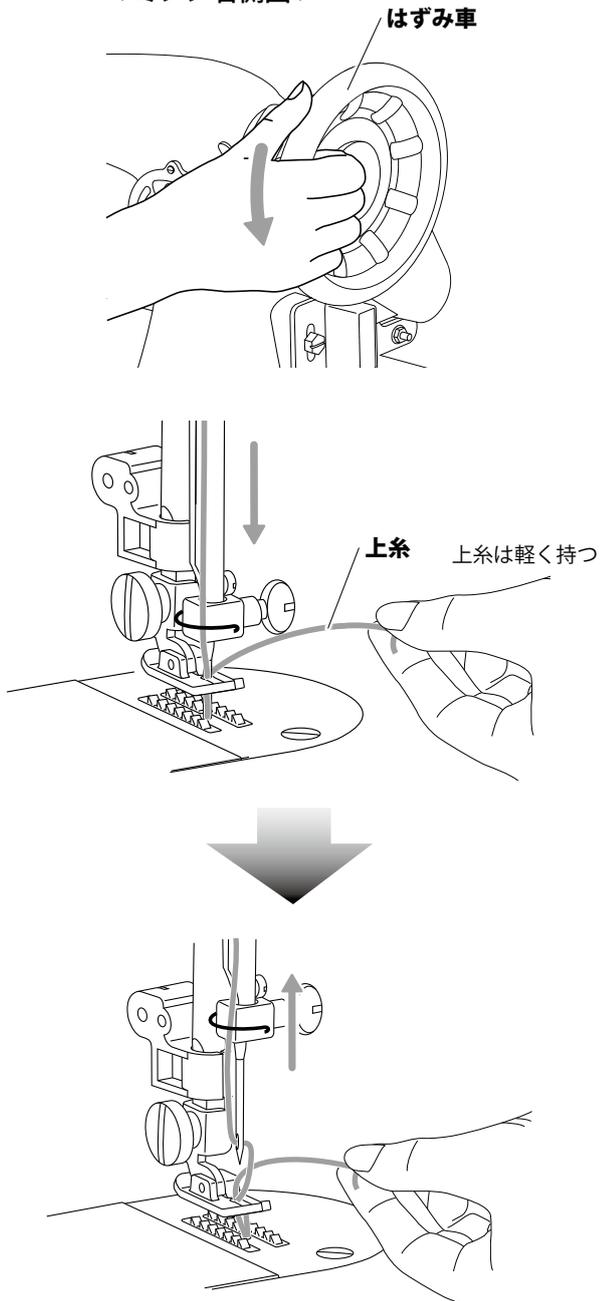


【1】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



【2】上糸の端を持ちます。

< ミシン右側図 >

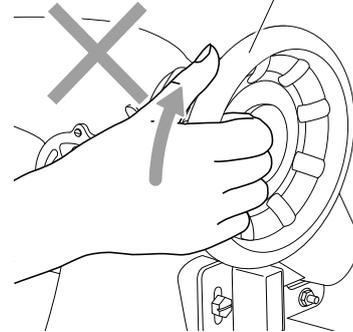


【3】 上糸を軽く持ったまま『はずみ車』を手前に1回転して針を上下させ、針と『天びん』を上げます。

! 注意

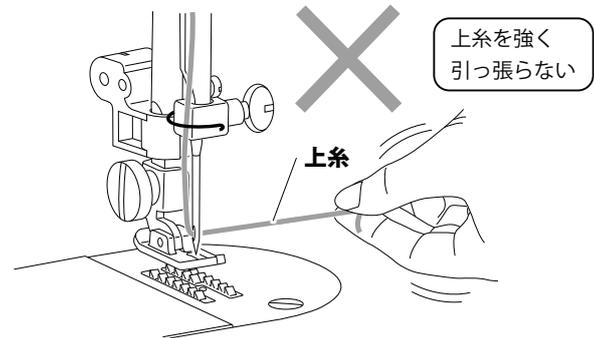
* 『はずみ車』を後側に回すと『下糸の輪』が引き出されません。

< ミシン右側図 > はずみ車

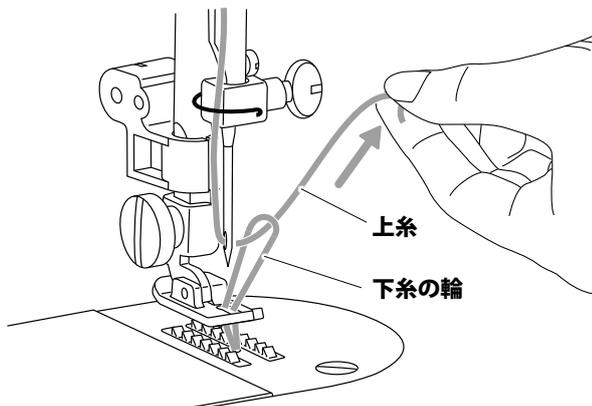


* 上糸を強く引っ張ると下糸が上がらないので、強く引っ張らないでください。

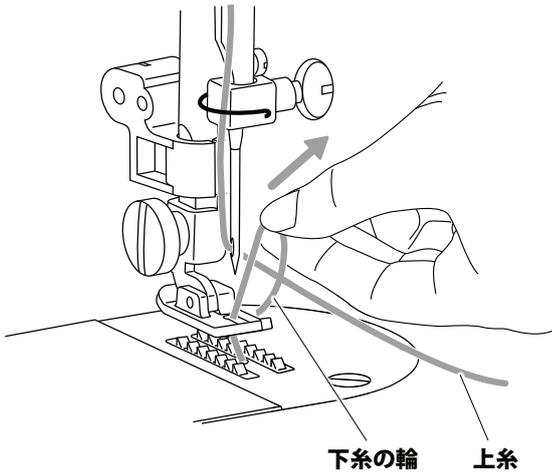
* 上糸を軽く持つだけにしてください。



* 『天びん』が下がっていると糸が引き出されません。

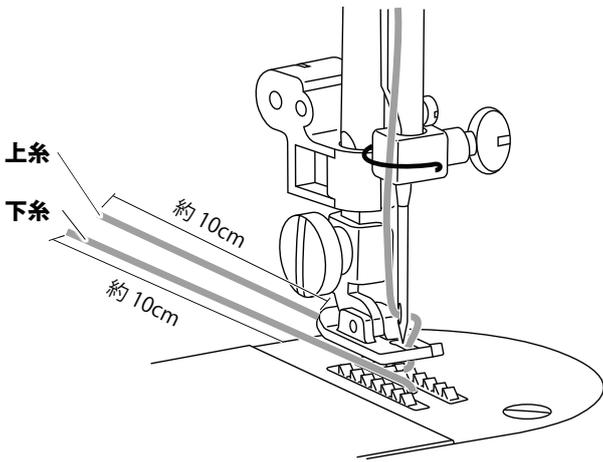


【4】 上糸を右側に引き『下糸の輪』を引き出します。



【5】『下糸の輪』をつまみ、下糸を引き上げます。

【6】上糸と下糸をそろえ『押え』の下に通し、10cm程を後方に引き出します。



注意

糸が10cm以下の場合、縫い始めに針から糸が抜けて引っかかり、ミシンが動かなくなることがあります。

試し縫いの前に

縫い損じを防ぐため、次のことを実施してください。



注意

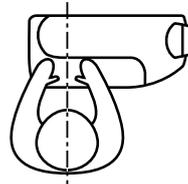


- ・ 安定した場所に設置する。
- ・ 作業スペースを十分に確保する。
- ・ 周囲に物を置かない。
- ・ はずみ車や針など動く部分が露出しています。ケガの原因になります。

● ミシンをより快適につかうために



針先が無理なく見える位置にミシンを設置してください。



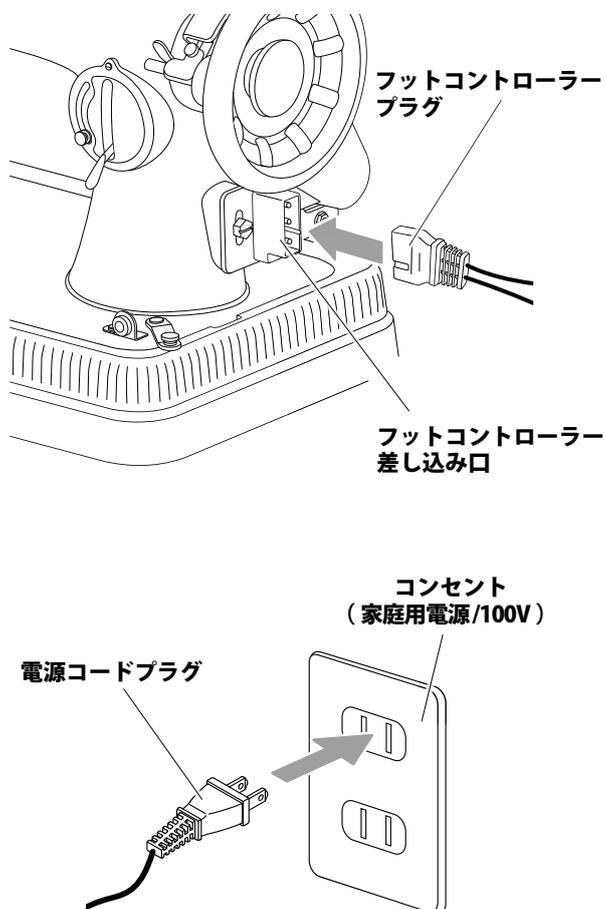
針の中心と身体の中心が一致するようにミシンを設置してください。



注意



・針先や天びん、はずみ車に注意する。
ケガをする恐れがあります。

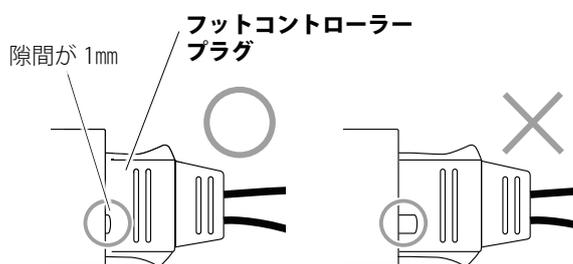


- 【1】『フットコントローラープラグ』をミシン側の『フットコントローラー差し込み口』に向きを合わせて奥までさし込みます。

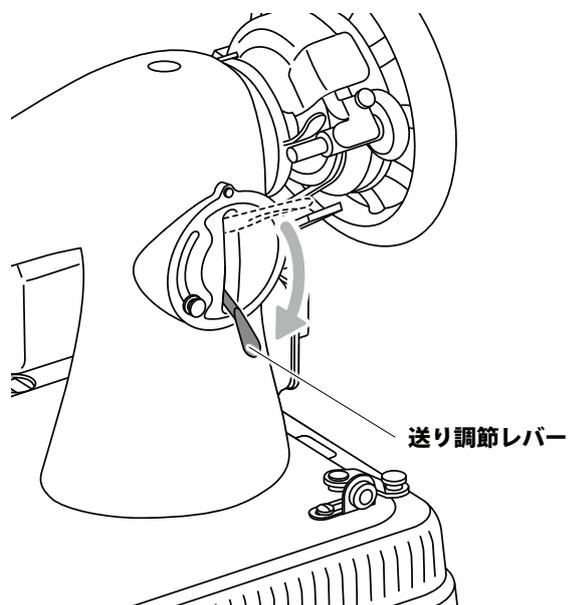


注意

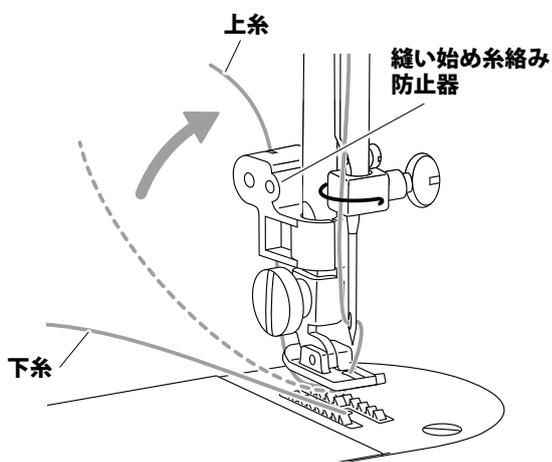
『フットコントローラープラグ』の隙間が1mmの位置までさし込みます。



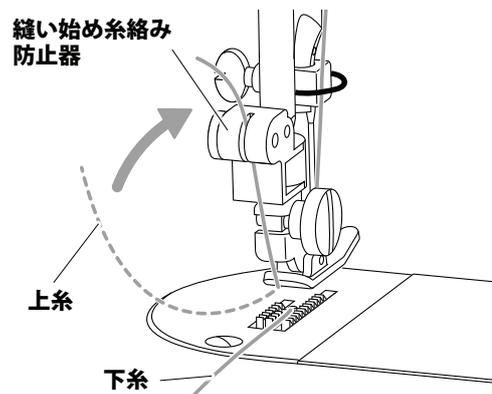
- 【2】コンセントに『電源コードプラグ』をさし込みます。



- 【3】『送り調節レバー』を一番下まで下げます。
*『送り調節レバー』の操作は P36 の送り長さ調節をご参照ください。



< ミシン背面図 >



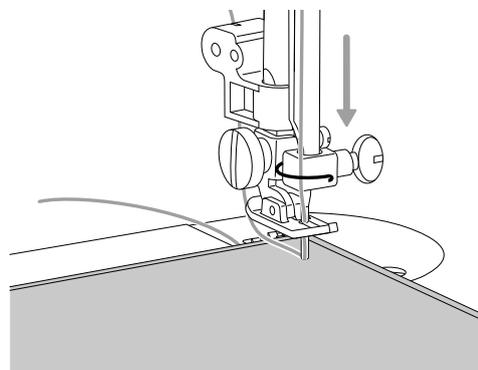
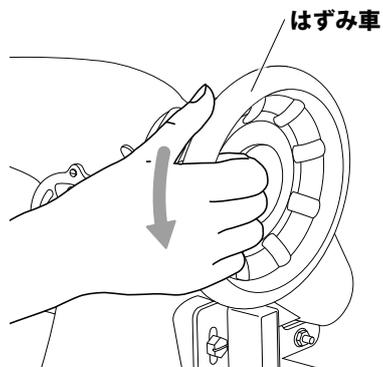
【4】 上糸にたるみが出ないように引っ張りながら

『縫い始め糸絡み防止器』のミゾに挟みます。

* 下糸は『縫い始め糸絡み防止器』のミゾに挟まないでください。



< ミシン右側図 >

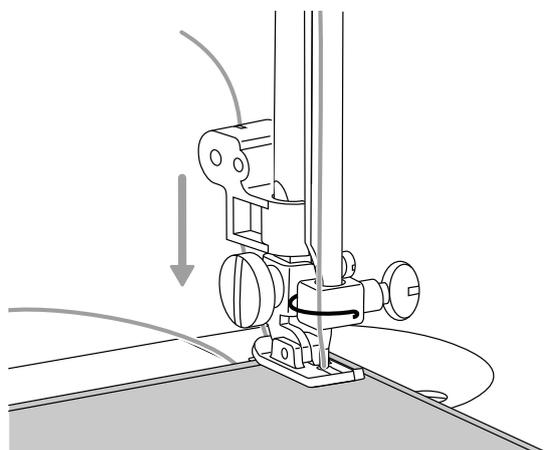
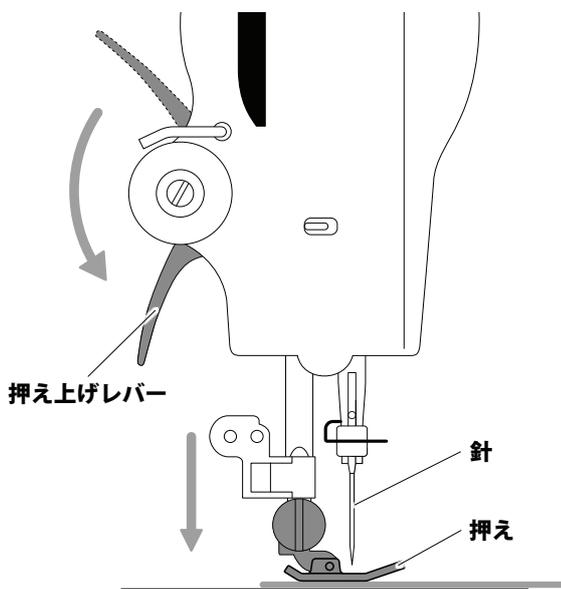


【5】 布を『押え』の下に置き、『はずみ車』を手前に

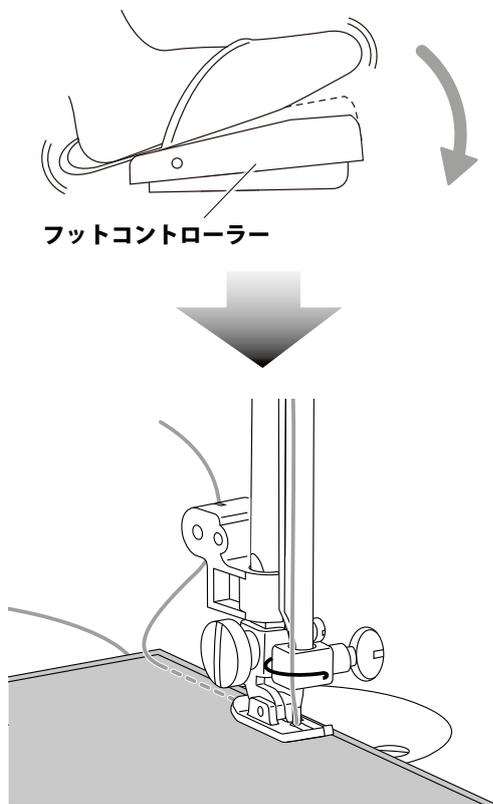
回して縫う位置に針を最下点まで深く刺します。

* 厚布、極厚布、革の縫い始めは、必ず針を最下点まで下げてから縫い始めてください。

< ミシン左側図 >



【6】 『押え上げレバー』を下げて、『押え』を下げます。



フットコントローラー

【7】『フットコントローラー』を少しずつ踏み込み、縫い始めます。

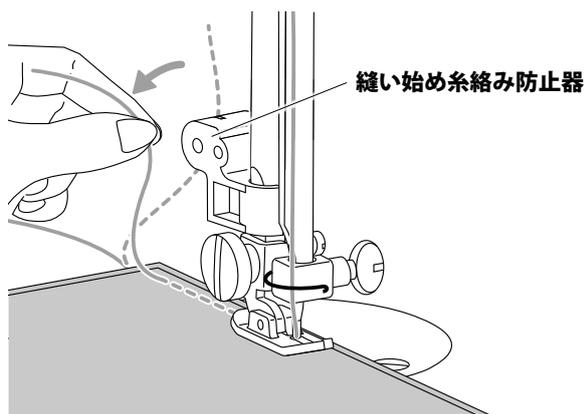
*『フットコントローラー』を深く踏み込むと勢よく縫い進みます。

*『フットコントローラー』を少しずつ踏み込むのが難しい場合、足踏みする要領で『フットコントローラー』を踏み込むと少しずつ縫い進むことができます。

*初めてのご使用やトラブルなどの後、試し縫いは5～6針手回しで縫い進めると安全にご使用できます。

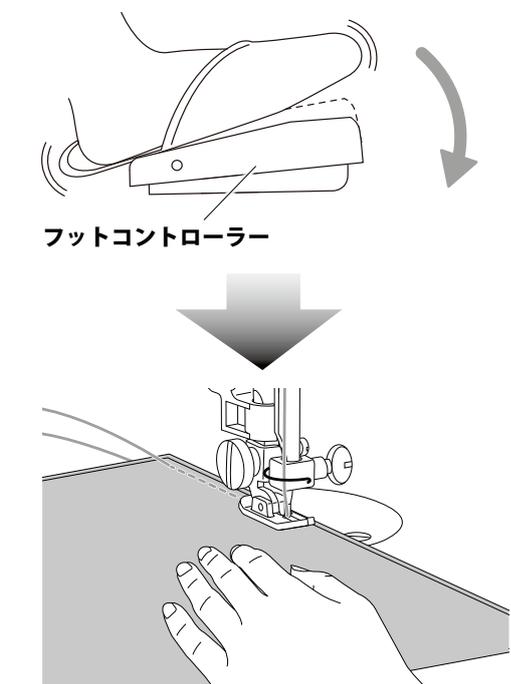
ポイント！

厚い布や固い布を縫うときは『フットコントローラー』の踏み込み量で調節してください。



縫い始め糸絡み防止器

【8】2cm程縫い進めて、『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。『はずみ車』を手前に回して針を最下点まで深く刺して、『縫い始め糸絡み防止器』から糸を外します。

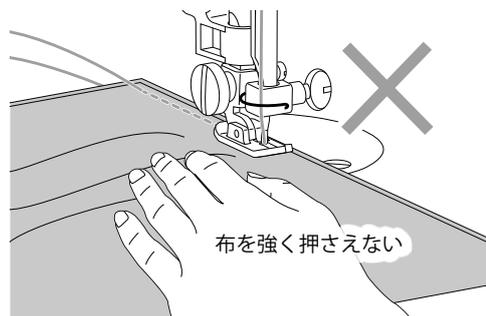


フットコントローラー

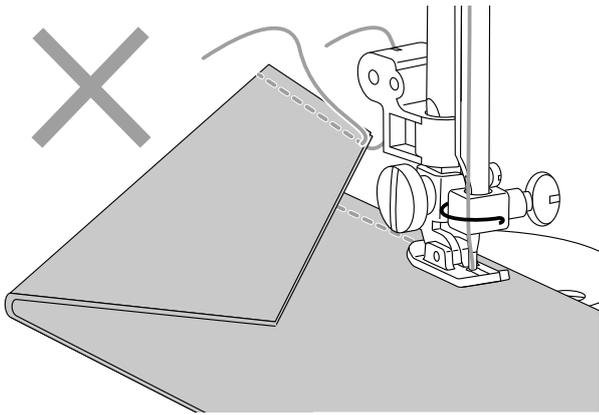
【9】布に手を軽くそえ、『フットコントローラー』を少しずつ踏み込み、布の進む方向を修正・補助してください。



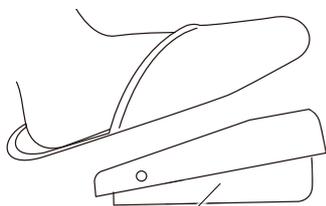
注意 布に手をそえるときは、押し進めないでください。



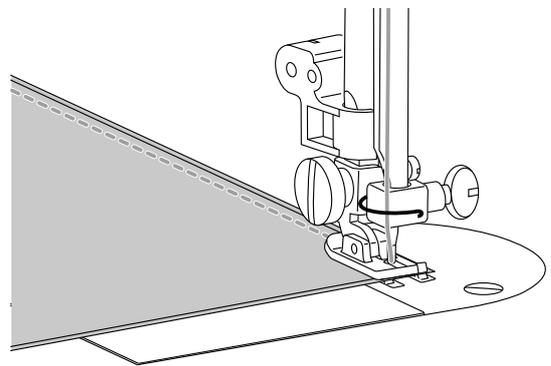
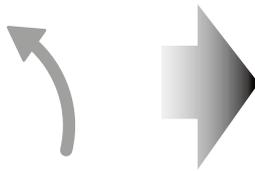
布を強く押さえない



*もし、『縫い始め糸絡み防止器』から糸を外すのを忘れて縫い進めると絡む原因になるので、必ず『縫い始め糸絡み防止器』から糸を外してください。

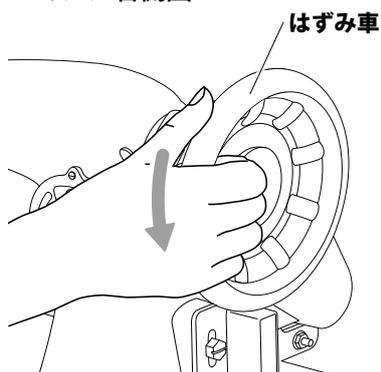


フットコントローラー

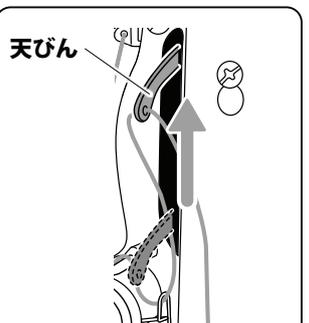
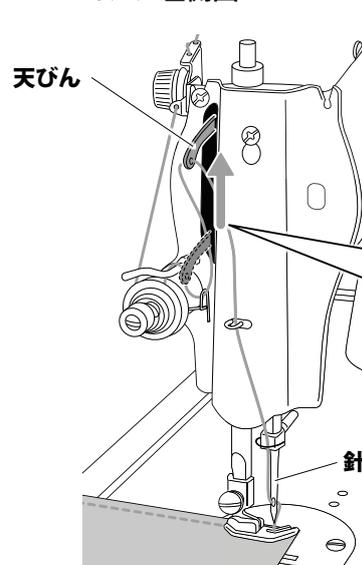


【10】布の縫い終わりまで縫ったら、『フットコントローラー』から足を離してミシンを止めます。

< ミシン右側図 >



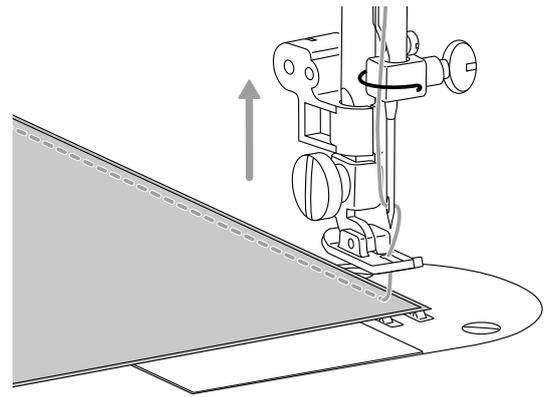
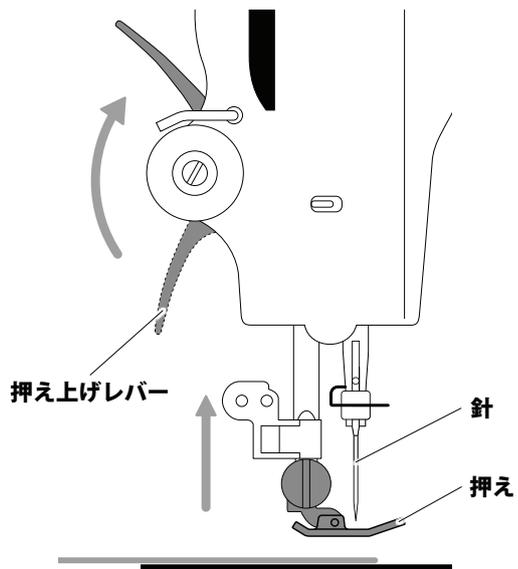
< ミシン左側図 >



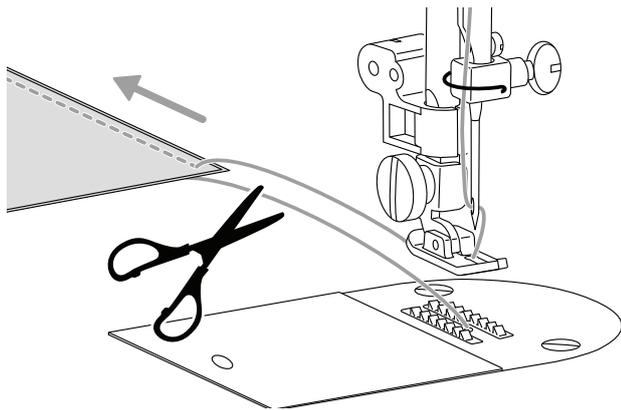
*必ず『天びん』を一番上まで上げます。

【11】『はずみ車』を手前に回して、針と『天びん』を一番上まで上げます。

< ミシン左側図 >



【12】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。



【13】布を引き出し、糸を切ります。

送り長さの調節

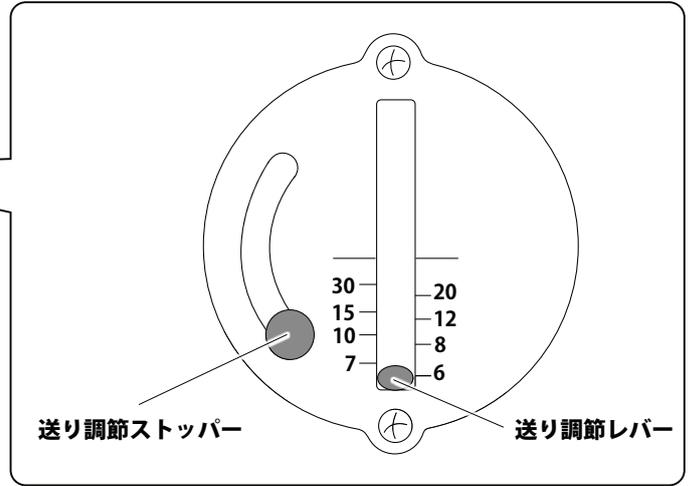
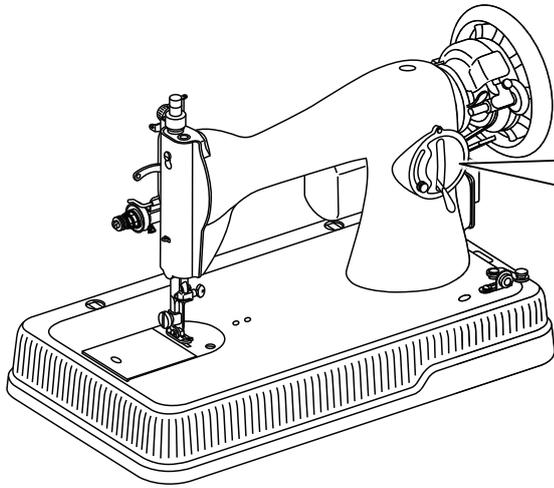
『送り調節レバー』で調節すると、縫い目の長さが変わります。



注意

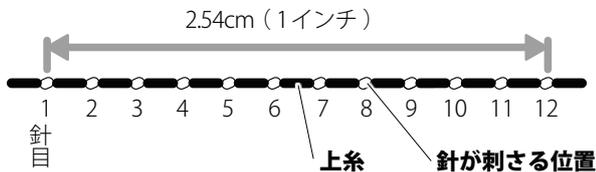


・針先や天びん、はずみ車に注意する。
ケガをする恐れがあります。



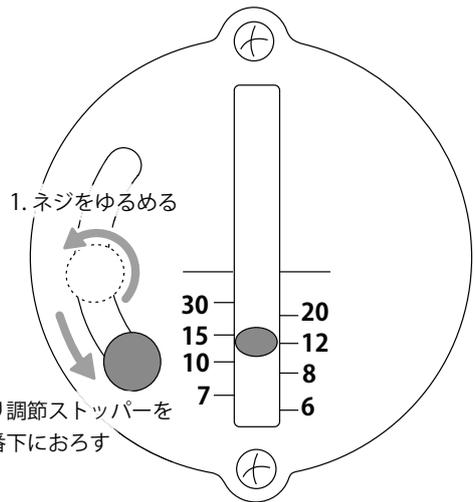
- 【1】『送り調節ストッパー』をゆるめます。
- 【2】『送り調節ストッパー』を一番下に下げます。

目盛りの見かた

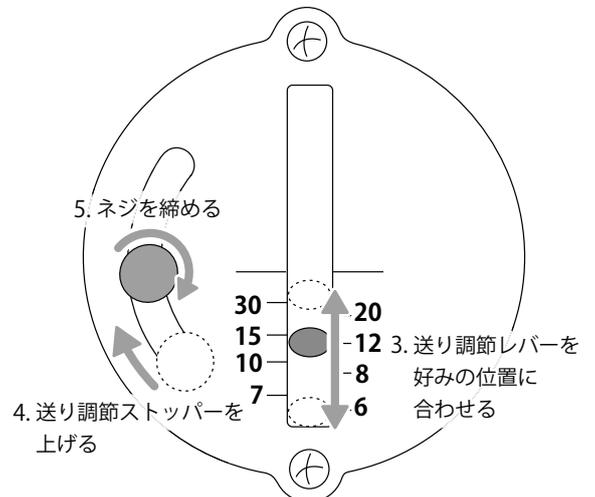


上の図のように実際の縫い目は目盛りが12の位置だと2.54cm (1インチ)間に12針刺さります。

- 【3】『送り調節レバー』を上下させ、好みの縫い目に合わせます。
- 【4】【3】で合わせた『送り調節レバー』の位置まで『送り調節ストッパー』を上げます。
- 【5】『送り調節ストッパー』締めて固定します。
*『送り調節ストッパー』を固定すると、縫い目の前進と後進がほぼ同じにすることができます。



1. ネジをゆるめる
2. 送り調節ストッパーを一番下におろす



3. 送り調節レバーを好みの位置に合わせる
4. 送り調節ストッパーを上げる
5. ネジを締める



注意

縫い目が細か過ぎると布が進まず、糸が切れたりする場合があります。

返し縫い

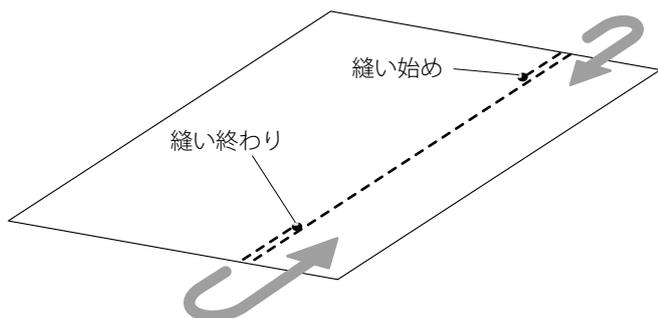
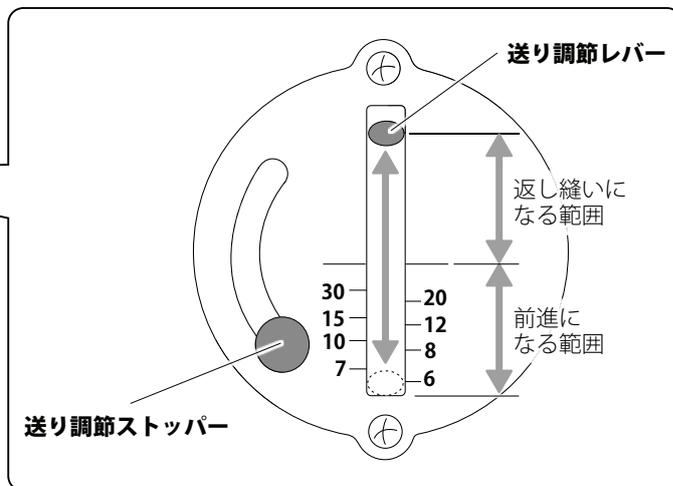
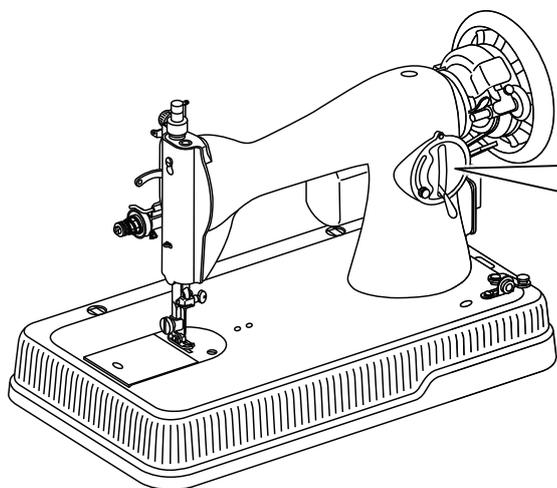
縫い始めと縫い終わり、強化したいところでほどけないようにします。



注意



・ 針先や天びん、はずみ車に注意する。
ケガをする恐れがあります。



ミシンが動いているときに、『送り調節レバー』を中央より上に（返し縫いができる範囲）上げている間は返し縫いになります。

* 縫い始めと縫い終わりに返し縫いを行うとほつれ止めになります。

* 布端の寸前から返し縫いを行うと、布が食い込んでしまう場合があります。

● 厚い布の返し縫い（厚い布は送り調節レバーで返し縫いしません）

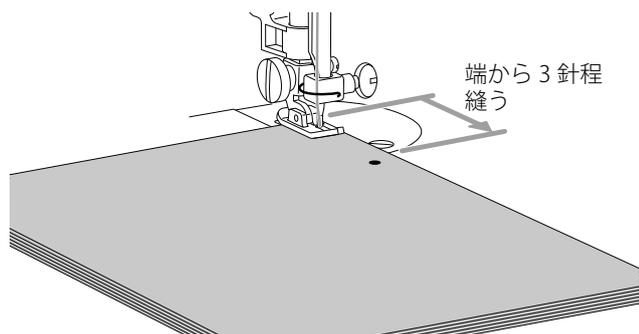


注意



・ 厚い布は送り調節レバーで返し縫いしません。
針が折れて、ケガをする恐れがあります。

* 段差に注意
(P42の厚い布や段差を縫うをご参照ください)



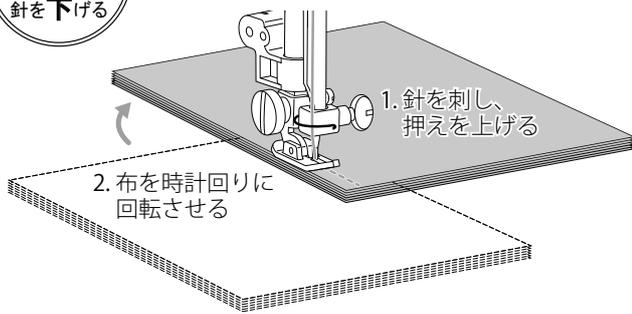
【1】 布の端から針を刺し、『はずみ車』を手前に回して3針縫います。



注意

厚い布の段差は押えが後側に傾き、
布が進みにくくなります。

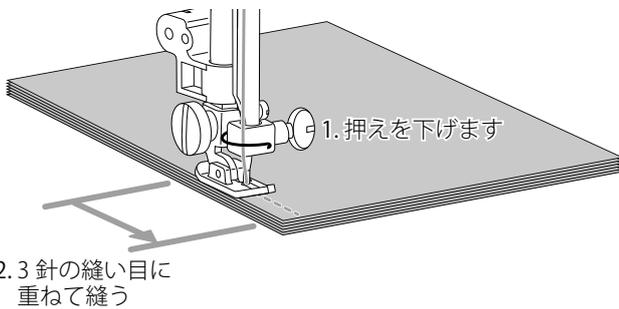
(P42の厚い布や段差を縫うをご参照ください)



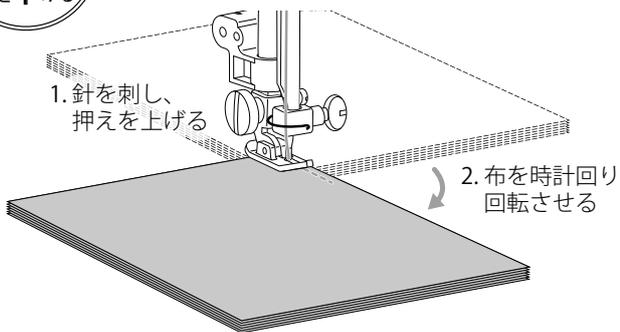
- 【2】 針を刺した状態のまま『押え上げレバー』で『押え』を上げて布を時計回りに回転させます。



布の回転は時計回りに回してください。
糸が絡む原因となります。



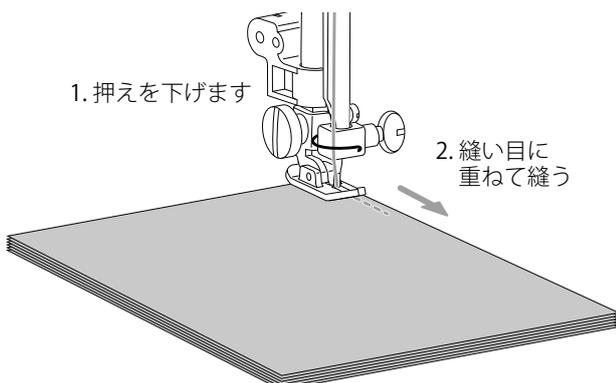
- 【3】 『押え上げレバー』で『押え』を下げます。
『はずみ車』を手前に回して、先に縫った
3針の縫い目に重ねて縫います。



- 【4】 針を刺した状態のまま『押え上げレバー』で『押え』を上げて布を時計回りに回転させます。



布の回転は時計回りに回してください。
糸が絡む原因となります。

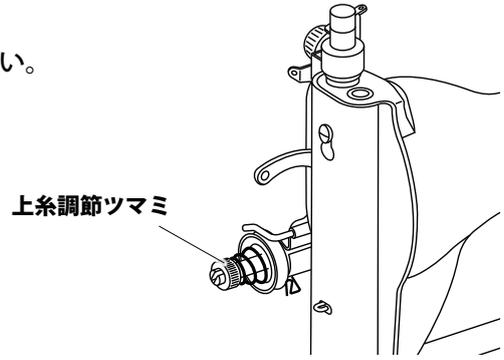
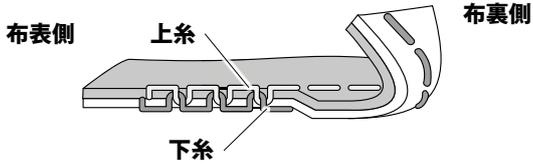


- 【5】 『押え上げレバー』で『押え』を下げます。
先に縫った縫い目に重ねて縫います。
* 縫い終わりも同様の手順で行います。
* 布を時計回りに回転させてください。

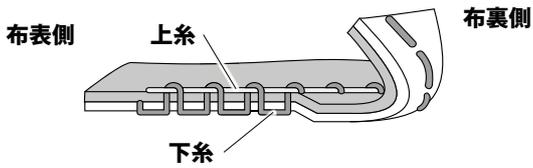
糸調子の合わせかた

糸調子が合わない場合は、『上糸調節つまみ』を回して調節してください。
P40の上糸調節つまみ位置の目安もご参照ください。

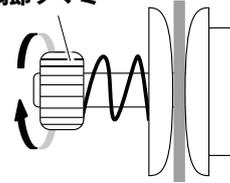
● **正しい糸調子** 上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。



● **上糸が強いとき** 下糸が布の表に出ています。

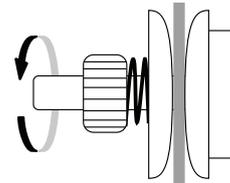
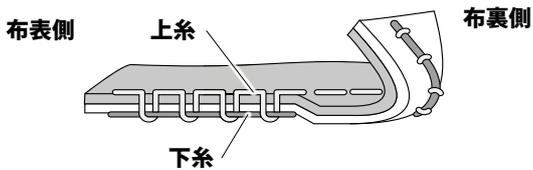


上糸調節つまみ



『上糸調節つまみ』を
反時計回りに回すとゆるみます。

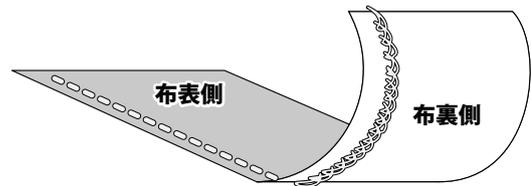
● **上糸が弱いとき** 上糸が布の裏に出ています。



『上糸調節つまみ』を
時計回りに回すと締まります。

● **布の裏側の糸がタオル地のようなときは**

- ・ 上糸の糸調子が弱過ぎる。
- ・ 『押え上げレバー』が上がっている。
- ・ 上糸のかけかたが間違っている。
- ・ 『カマ』や『針板』に傷がある。
- ・ ポビンの種類が異なっている。

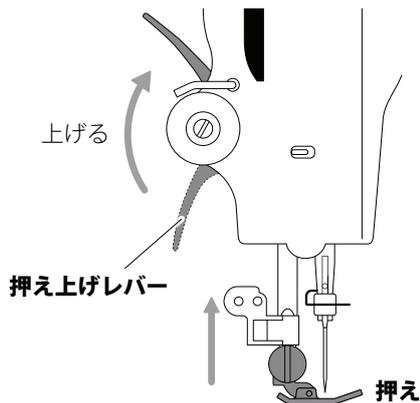


ポイント！

『押え』を上げ、ミシンから上糸を全て外し、上糸をもう一度正しくかけ直してください。
(P22の上糸のかけかたをご参照ください)

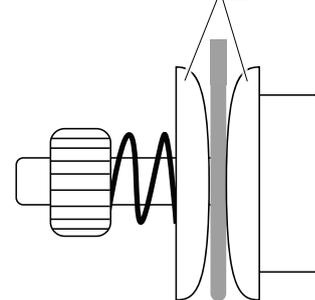
* 上糸を再度かけ直すとき、下の図に注意してください。

< ミシン左側図 >



『押え上げレバー』で『押え』を上げる。

上糸調節器皿



『上糸調節器皿』の間に糸をかける。

布、針、糸の関係・上糸調節つまみ位置の目安



注意



・表に記載している糸以外は使用しないでください。
故障の原因になる恐れがあります。

このミシンには厚い布に適した 18 番の針が標準装備されています。

(一般の家庭用ミシン針よりも強度がある HL×5 を使用しています)

●下記の表は参考です。必ず試し縫いをして、縫い目をご確認ください。

	布の種類	針の種類・番号	糸の種類・番号		上糸調節つまみ位置の目安
薄布	一般裏地、ローン、レース ジョーゼット、キュプラ オーガンジーなど	9、11 番	綿 絹 化繊糸	60～100 50～90 60～90	0 mm
普通布	一般布、ブロード、ソフトデニム サテン、パイル、ギンガムなど	11、14 番	綿 絹 化繊糸	60～90 50～90 60～90	0 mm
厚布	キルティング、*フリース ツイード、フェルトなど	14～18 番	綿 絹 化繊糸	40～50 50 50～60	2 mm
極厚布	帆布、キャンバス デニム、ターポリン	16、18 番	化繊糸 フィラメント糸	20～30 8～20	6 mm *副張力器皿にもかける
伸縮布	ニット、スパンデックス トリコット、ジャージなど	ニット用針 11、14 番	綿 化繊糸 *ニット用糸	60 50～90 50～90	0 mm
革	合皮、皮革	18 番	化繊糸 フィラメント糸	20～30 8～20	6 mm *副張力器皿にもかける

●『上糸調節つまみ』の調節方法は P39 の糸調子の合わせかたをご参照ください。

●針は数字が大きくなるほど太くなります。 ●糸は数字が大きくなるほど細くなります。
(針の交換は P46 の針の取り替えかたをご参照ください)

●きれいに縫うためには、布に合った針と糸をご使用ください。(上記の表をご参照ください)

●上糸と下糸は同じ種類・同じ太さの糸をご使用ください。

●薄布～普通布を縫うときは、付属の 18 番の針だと布によって針穴が目立つため

『家庭用ミシン針』(HA×1)の 9～14 番に交換してください。

※レースやオーガンジーなど薄い布を付属の 18 番の針で縫うと、布が破れてしまうことがあります。

●針は『家庭用ミシン針』(HA×1)または(HL×5)、糸は『ミシン糸』とご指定の上お買い求めください。

※HA×1は一般的な家庭用ミシン針となります。

※HL×5は極厚布または革に適した針です。

*フリース、ベルベット、バスタオルなどの毛足が長い布は、縫い始めの糸が絡まないように、注意が必要です。

*カタン糸、レジロン糸(ニット用糸)、テグス糸(透明)の糸は、縫い始めの糸が絡まないように、注意が必要です。

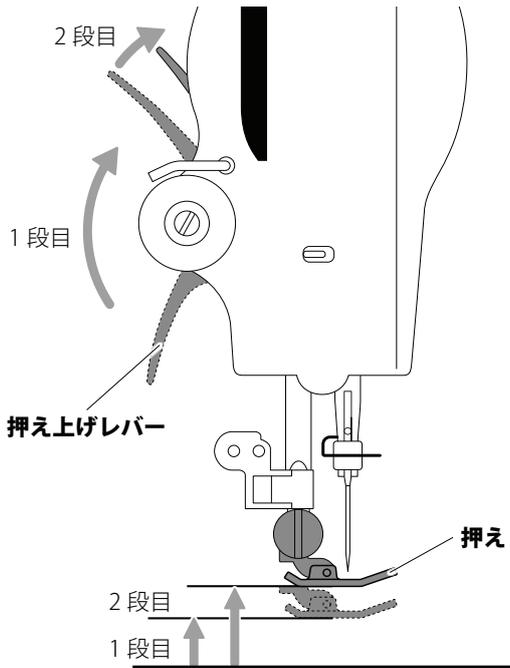
●厚い布は、必ず針を深く刺してから縫い始めてください。

※厚い布や固い布は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。

『はずみ車』を手前にゆっくり手で回しながら縫い進めてください。

押え上げレバー

< ミシン左側図 >



『押え上げレバー』は『押え』を上下させることができます。

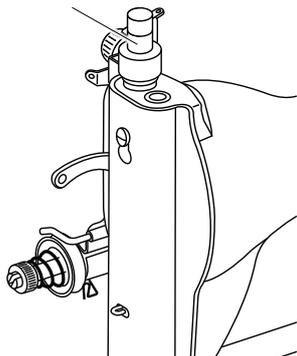
『押え上げレバー』を上げると、『押え』が上がります。
更に『押え上げレバー』を上げると、『押え』がもう一段上がる2段階式になっています。

* 2段目は『押え』の高さを固定できません。

* 布の厚みは1段目の高さを超えないようにしてください。

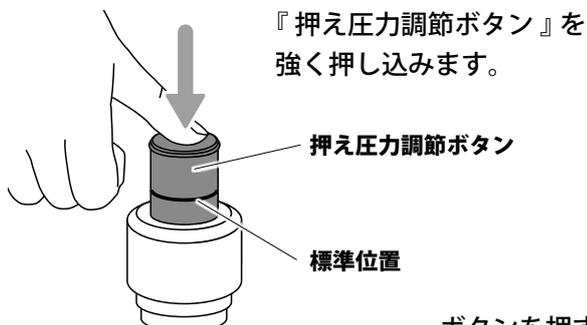
押え圧力調節

押え圧力調節ボタン

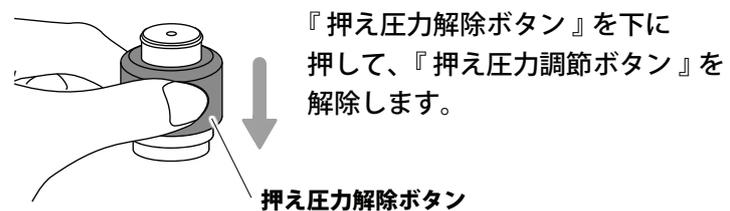


『押え圧力調節ボタン』を押して、縫うものに合わせて『押え』の圧力を調節できます。

● 押えの圧力を調節する。



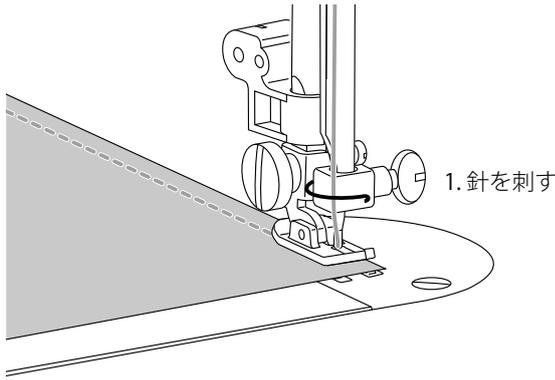
● 押えの圧力を解除する。



ボタンを押す量を調節してください。



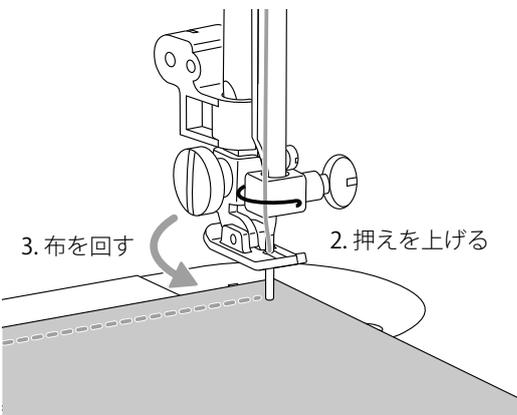
縫い方向を変える



【1】 布の端から 1cm 手前のところまで縫い、そこから『はずみ車』を手前に回して布の端まで手回しで縫います。

【2】 布の端まで縫い終えたら、『はずみ車』を手前に回して針を深く刺します。

* 針をしっかり刺していないと布を回すとき、ずれてしまいきれいな縫い目にならないまたは糸が絡んでしまう原因になります。



【3】 『押え』を上げ、針を軸にして布を回転させ縫い方向を変えます。

【4】 『押え』を下げ、縫い始めます。

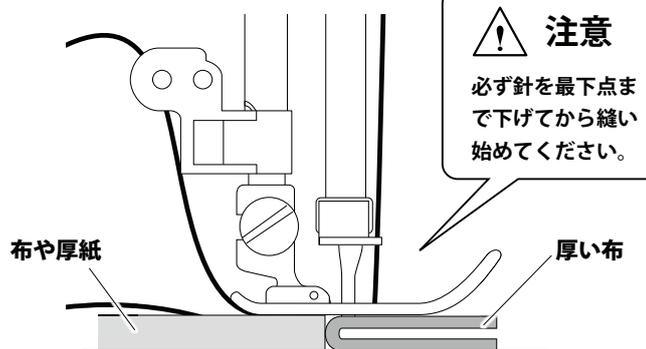
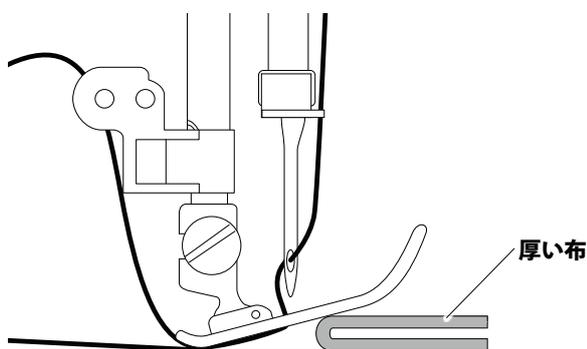
厚い布や段差を縫う

縫い始めや段差を縫うとき

* 厚い布や固い布は、針が刺さりにくく止まってしまうことがあります。

その時は『はずみ車』を手前に回しながらゆっくり縫い進めてください。

(手で回しても固いときは、『はずみ車』を無理に回さないでください。故障の原因になる恐れがあります)



厚い布を布の端から縫い始めると『押え』が傾き、布が進まなくなることがあります。

その場合、『押え』の下に布と同じ厚さの布や厚紙を置き、傾きをなくすと順調に縫い始めることができます。

* タオル布を縫うときは、両端の耳を切り落としてから縫ってください。

* 厚い布を縫うときの糸は 8 番以上をご使用ください。0、5 番などの糸は使用できません。

* 厚い布を縫うときは、市販の家庭用ミシン針：16、18 番をご使用されることをおすすめします。

* ミシン針：18 番 (HL × 5) 以外は付属していません。

押えの取り外しかた・取り付けかた



注意

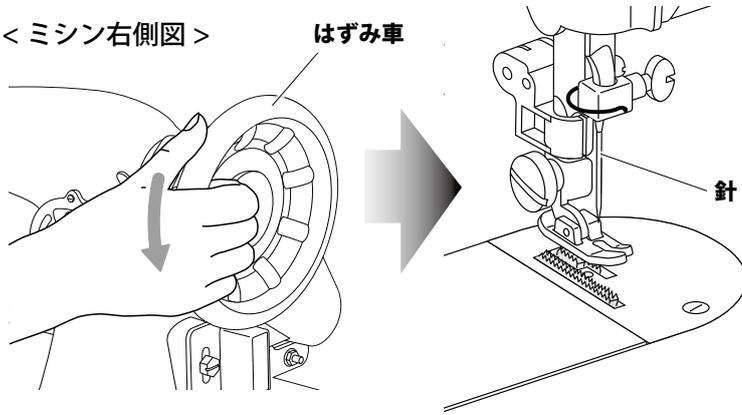


・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
突然動くとケガをする恐れがあります。



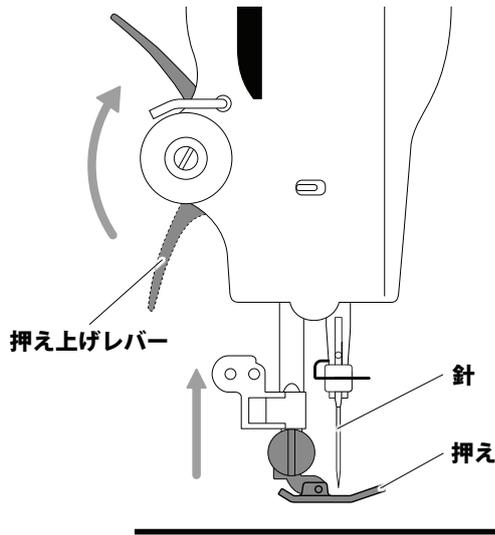
・針先や天びんに注意する。
ケガをする恐れがあります。

< ミシン右側図 >



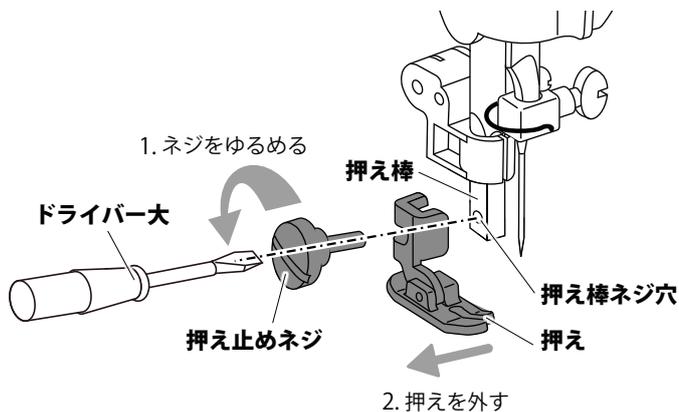
【1】『はずみ車』を手前に回し、針を一番上にします。

< ミシン左側図 >



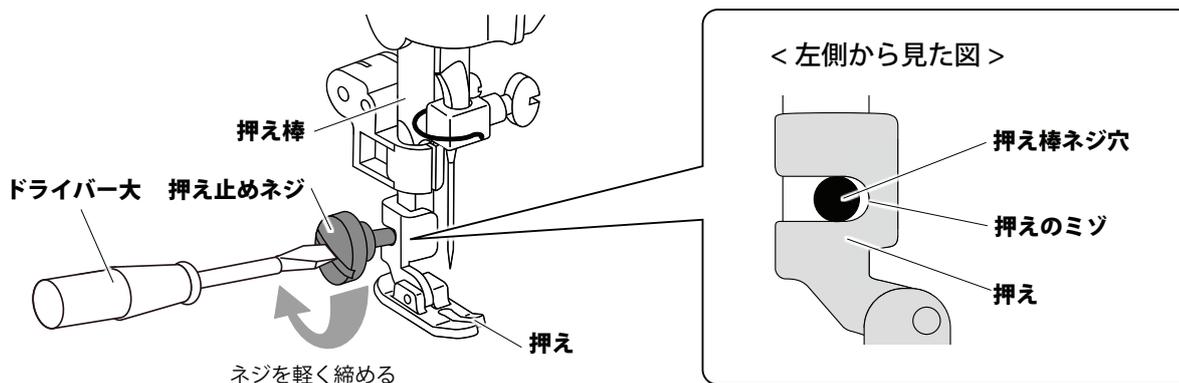
【2】『押え上げレバー』で『押え』を上げます。

● 押えを取り外す

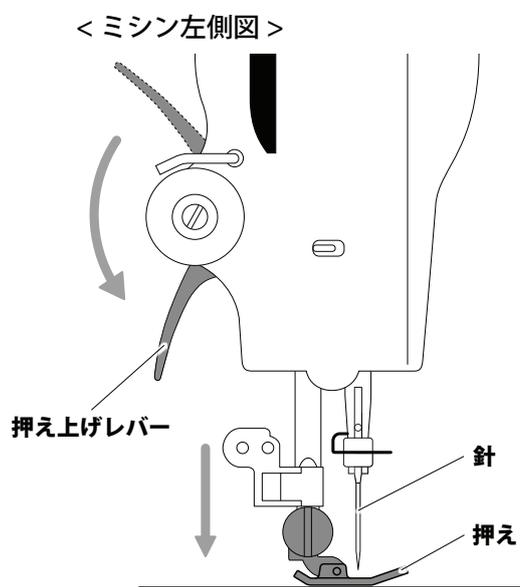


【3】『押え止めネジ』を付属の『ドライバー大』でゆるめ、『押え』を外します。

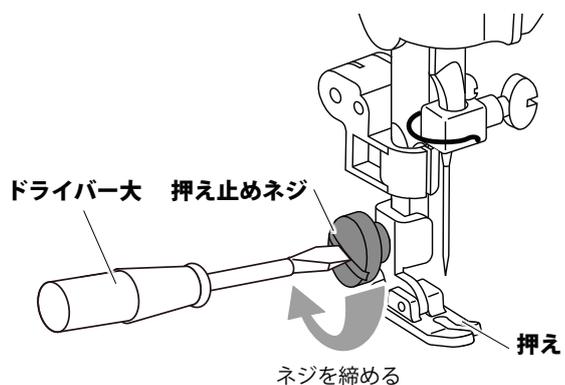
● 押えを取り付ける



- 【4】『押えのミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、
『押え止めネジ』を4回転程回して軽く締めます。



- 【5】『押え上げレバー』で『押え』を下げます。

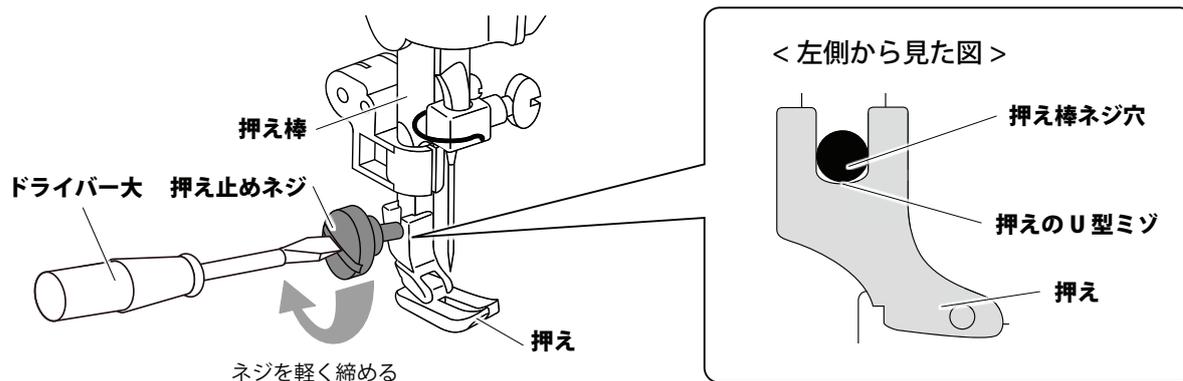


- 【6】『押え止めネジ』をしっかりと締めます。

● スムース押えを取り付ける

『スムーズ押え』は滑りの悪い布などに効果的な押えです。

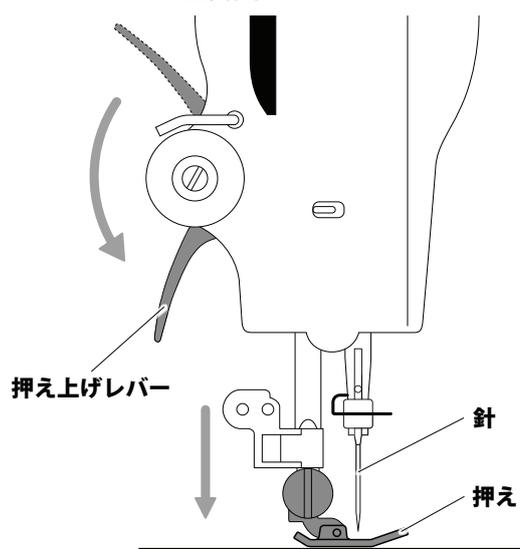
例えば…革、ターポリン、ビニールコーティング、ニット、トリコット、ウールなど。



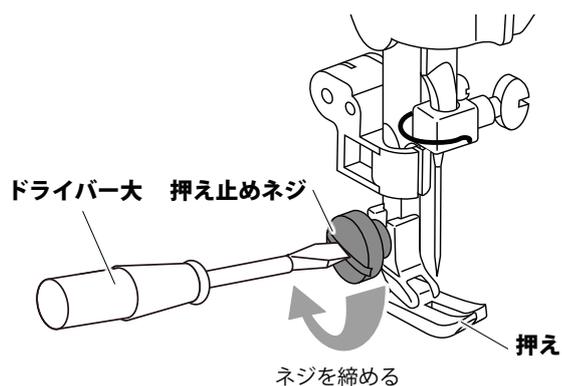
【1】『はずみ車』を手前に回し、針を上げ、『押え上げレバー』で『押え』を上げます。

【2】『押えのU型ミゾ』と『押え棒ネジ穴』の位置を合わせ、『押え止めネジ』を4回転程回して軽く締めます。

<ミシン左側図>



【3】『押え上げレバー』で『押え』を下げます。



【4】『押え止めネジ』をしっかりと締めます。

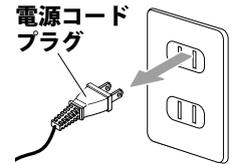
針の取り替えかた



注意

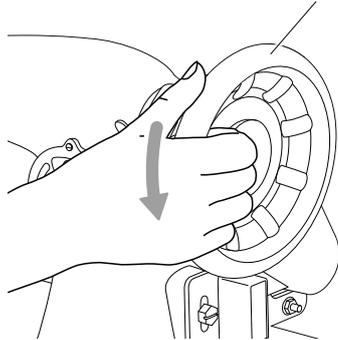


- ・ 電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
- ・ はずみ車、天びん、針周辺に手や物を置かない。突然動くケガをする恐れがあります。
- ・ 針の先端に注意してください。ケガをする恐れがあります。



< ミシン右側図 >

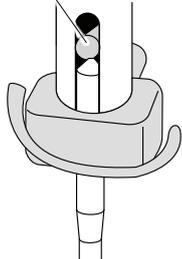
はずみ車



【1】『はずみ車』を手前に回して針を上げます。

< ミシン左側図 >

ピン

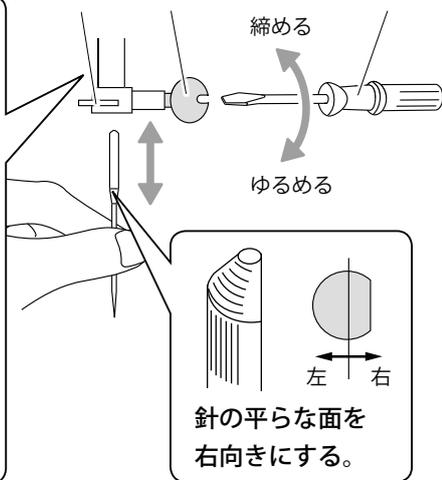


針の根元の突起がピンに当たるまでさし込む。

針止め

針止めネジ

ドライバー大



【2】 付属の『ドライバー大』を使用し、針を交換します。

外す : 取り付けられている針を持ち、『針止めネジ』をゆるめ、針を下に引き抜きます。

付ける : 針を平らな面を右にくるように持ち、『ピン』に当たるまでさし込み、『針止めネジ』を締めます。

*『針止めネジ』をゆるめすぎると『針止め』が外れる場合があります。外れたときは元の位置に止め直してください。

正しい針の選びかた

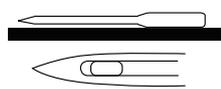
* 曲がった針は使用しないでください。

* ミシン針 (HL × 5) または家庭用ミシン針 (HA × 1) をご使用ください。

* 目飛び、糸絡みがする場合は、ミシンに付いている針先が曲がっていたり、つぶれていないかを確認してください。

* 不良の針を使い続けると、きれいに縫えないばかりでなく、針板やカマに傷をつけます。新しい針に交換してください。

○ 正しい針



× 悪い針



全体に曲がっている



先端のつぶれ



先端の曲がり

ガラスのような平らな面に針を置き、針の曲がり具合を確認してください。

お手入れ：油をさす



警告



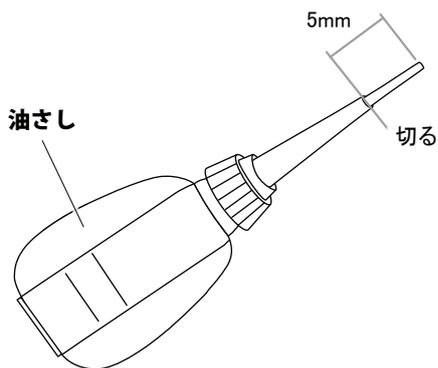
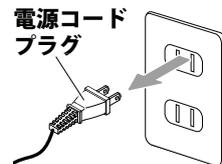
- ・ 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。
窒息する恐れがあります。
誤って油を飲んでしまったときは、医師に『鉱物油』であることを告げて治療を受けてください。



注意



- ・ 電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
- ・ はずみ車、天びん、針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。



【1】 付属品の『油さし』の先端5mm ぐらいの位置で切ります。



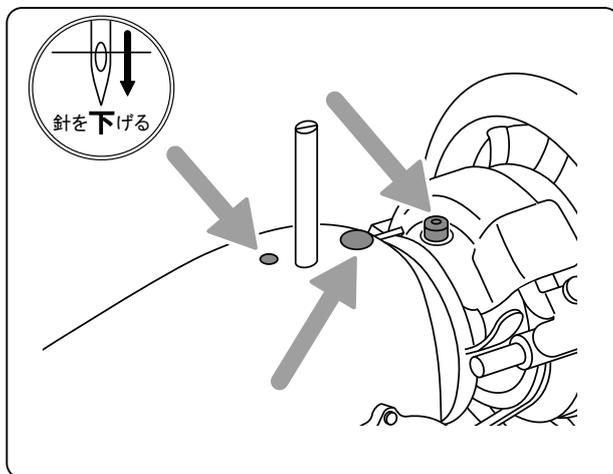
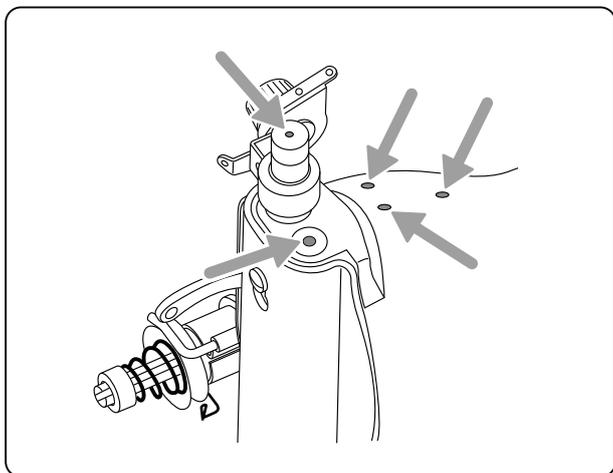
注意

『油さし』を倒した状態のまま保管すると油が流れ出る恐れがあるため、『油さし』は立てた状態で保管してください。

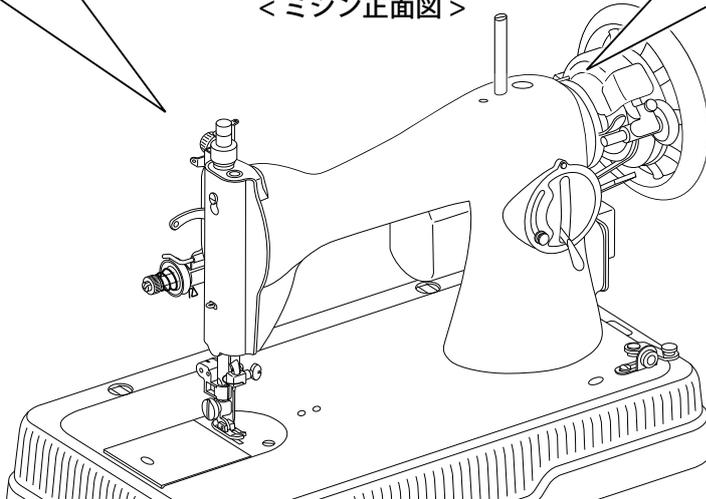
● 油をさす

【2】 8箇所の矢印の場所に油を一滴さします。

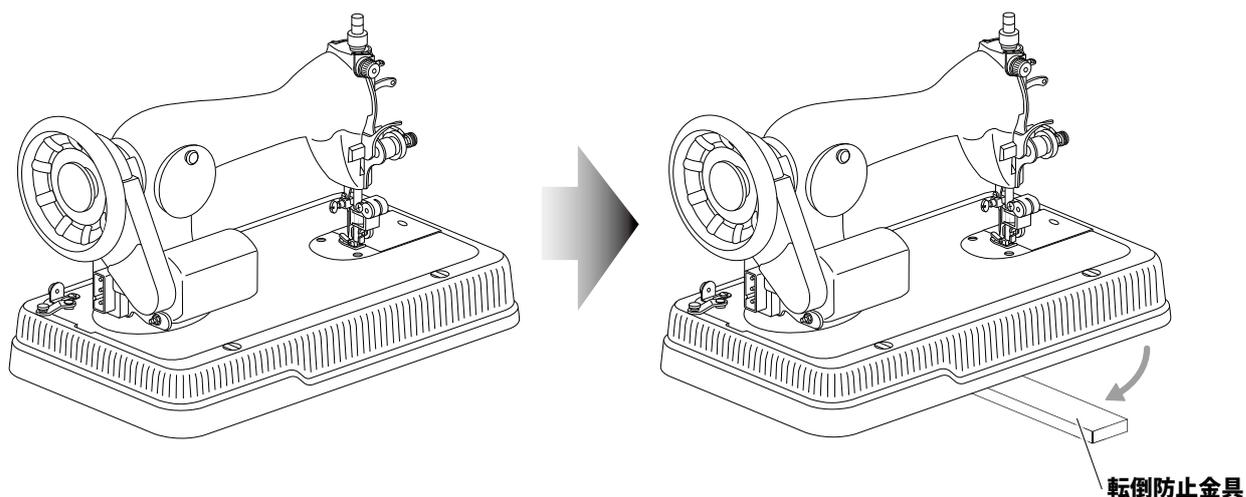
* 『はずみ車』を手前に回して針を一番下にしてください。



< ミシン正面図 >



● ミシン本体を倒す

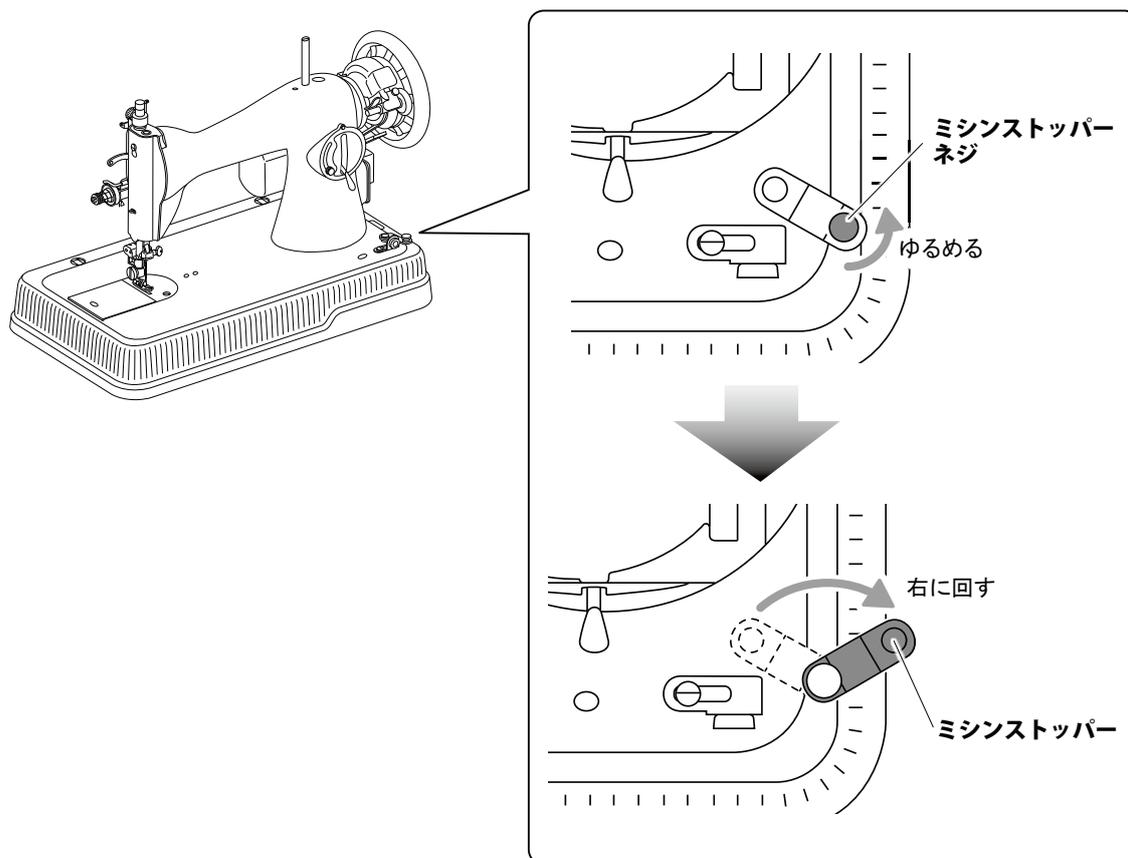


【3】 ミシン底面の『転倒防止金具』を引き出します。

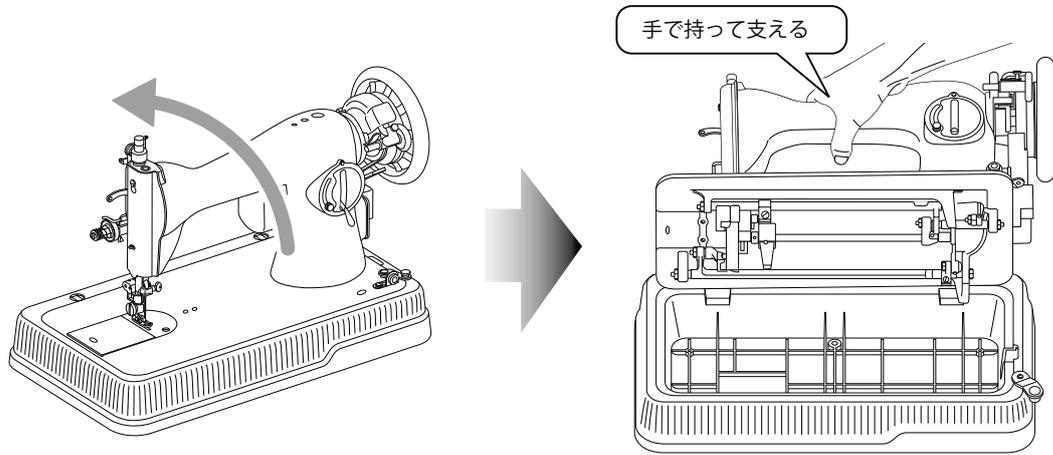


注意

『転倒防止金具』が出ていないと、お手入れの最中などにミシンが倒れる場合があります、部品の破損やケガをする恐れがあります。



【4】 『ミシンストッパーネジ』を左に4回転程回してゆるめ、『ミシンストッパー』をミシン本体から外し、解除します。

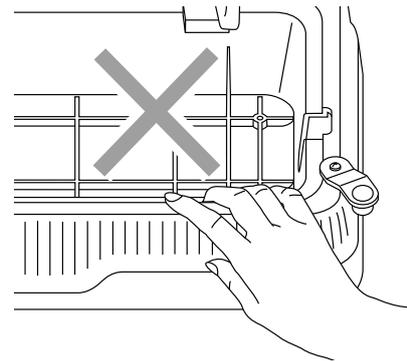


【5】 ミシン本体を持って、ゆっくり倒します。
倒した後は、必ずミシンを手で持ち支えてください。

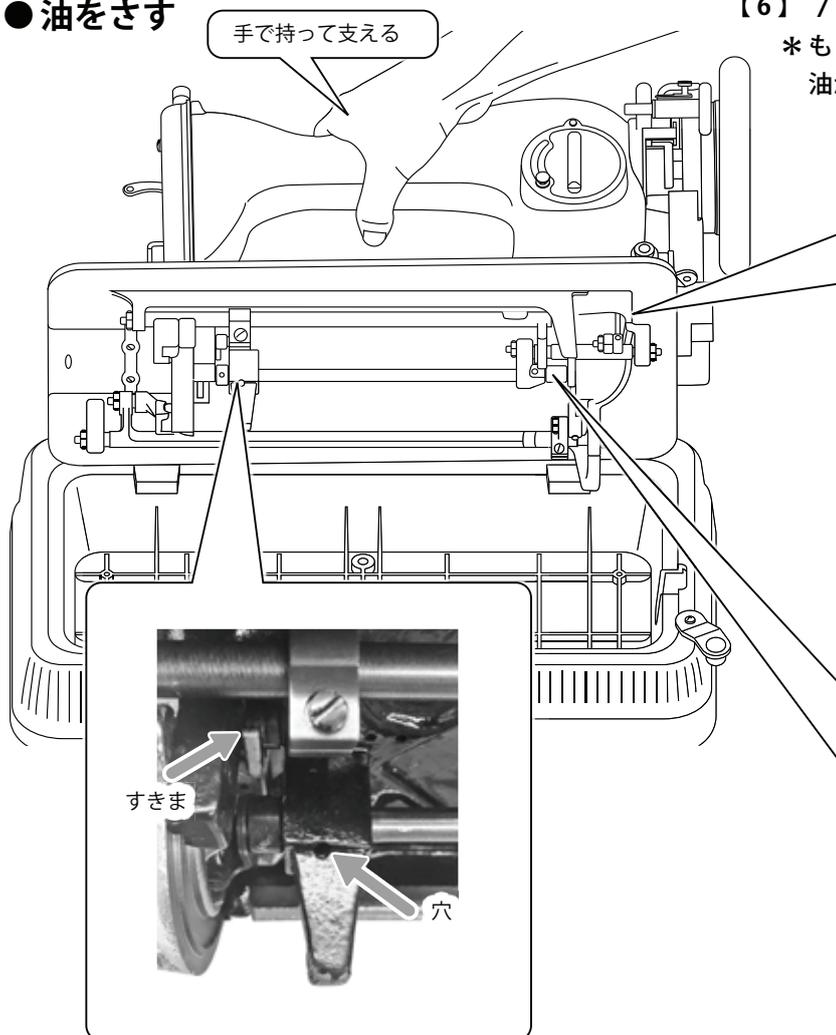


注意

- 右のイラスト位置のような箇所に手を置かないでください。
ミシンが前に倒れてケガをする恐れがあります。
 - 倒した後は、ミシンを手で持ち支えてください。
支えていないとミシンが倒れてケガをする恐れがあります。
- * 手で持ち支えた状態で、作業がしにくい場合はタオルなどの大きな布をはさんで置くことをおすすめします。

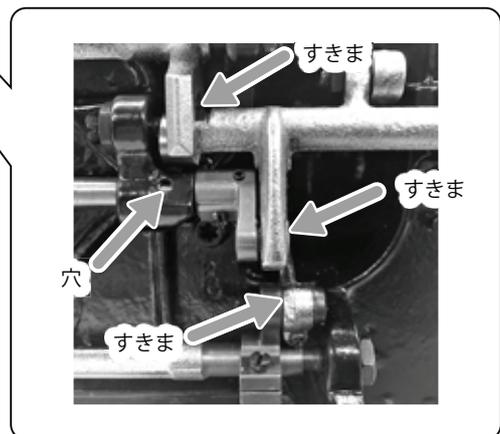
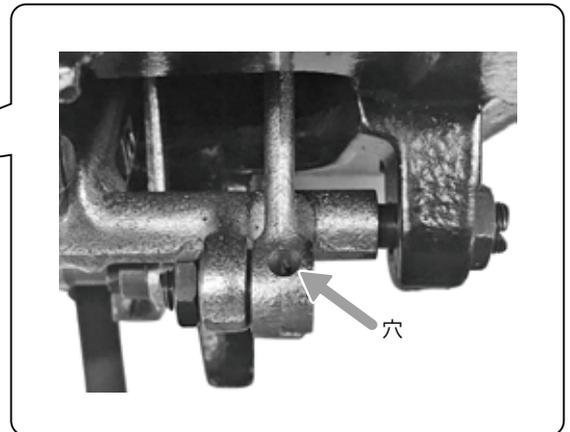


● 油をさす

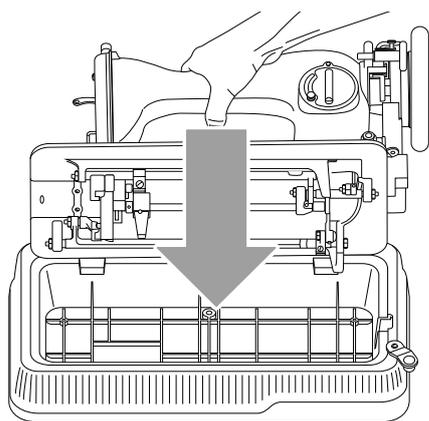


【6】 7箇所の矢印の場所に油を一滴さします。

* もし、油がさしにくい場合は『はずみ車』を回して油がさしやすい位置に調節します。



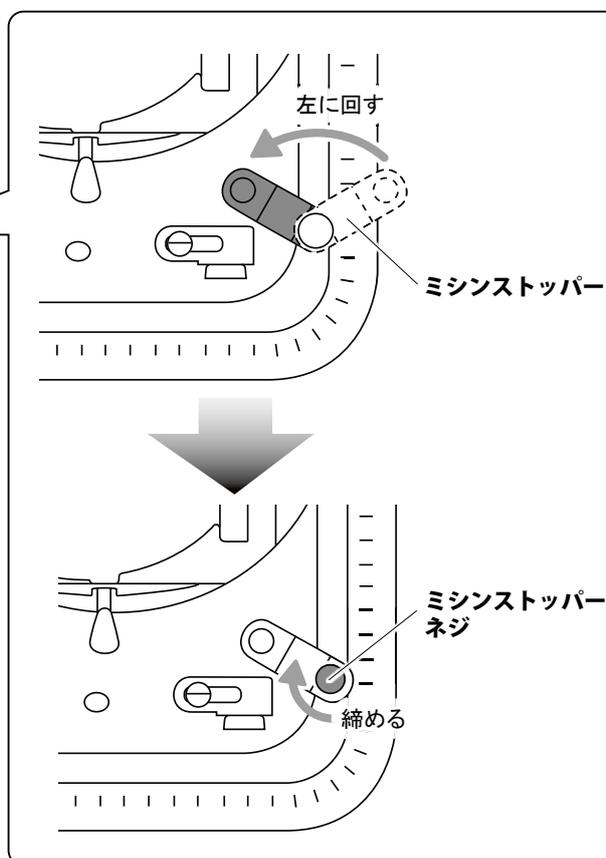
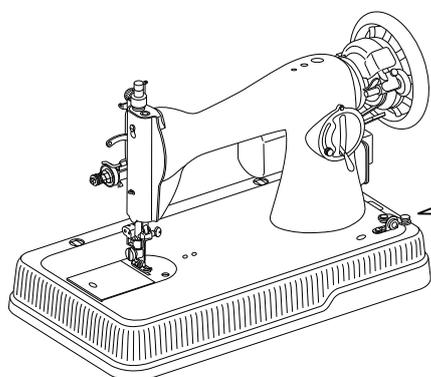
● ミシン本体を戻す



【7】 ミシン本体を持って、ゆっくり前に倒します。



ミシン本体は重量があるため、勢いのまま倒してしまうと、ケガをする恐れがあります。必ずゆっくり前に倒してください。



【8】 『ミシンストッパー』を左に回して、ミシン本体を押さえます。
『ミシンストッパーネジ』を締めます。

お手入れ：カマのそうじ



警告



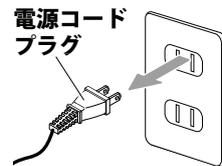
- ・付属品などの小さな部品は口に入れないでください。
窒息する恐れがあります。
誤って油を飲んでしまったときは、医師に『鉱物油』であることを告げて治療を受けてください。



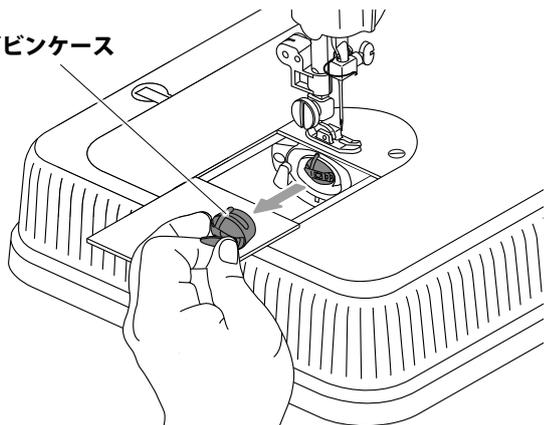
注意



- ・電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
- ・はずみ車、天びん、針周辺に手や物を置かない。
突然動くとケガをする恐れがあります。

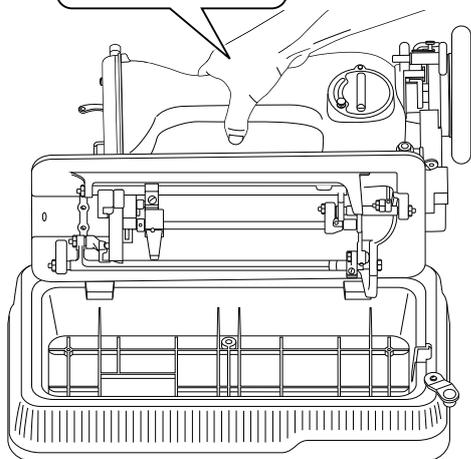


ボビンケース



- 【1】『はずみ車』を手前に回して針を上げます。
- 【2】『すべり板』を開いて、『ボビンケース』を取り出します。
* 詳しい内容については P11 のボビンの取り出しかたをご参照ください。

手で持って支える

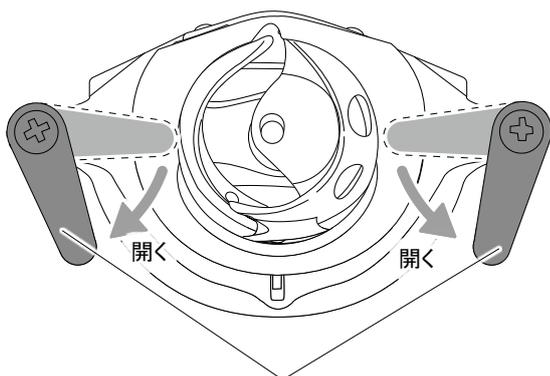


- 【3】『転倒防止金具』を引き出してから『ミシンストッパーネジ』をゆるめて、『ミシンストッパー』をミシン本体から外し、解除します。
- 【4】ミシン本体を持って、ゆっくり倒します。

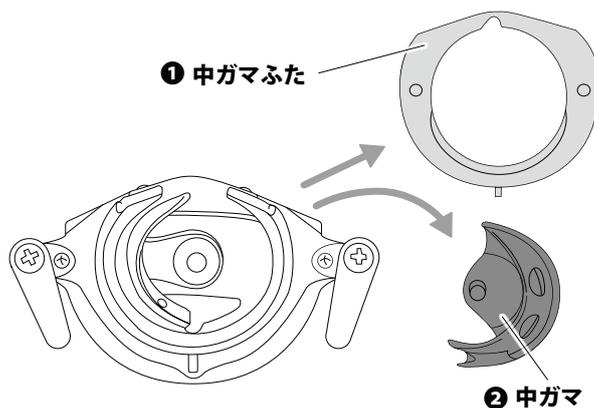
* 詳しい内容については P48 のミシン本体を倒すをご参照ください。

* 倒した後は、ミシンを手で持ち支えてください。支えていないとミシンが倒れてケガをする恐れがあります。

* 作業がやりにくい場合はベースカバーの内部にタオルなどをいれて倒れないように支えてください。

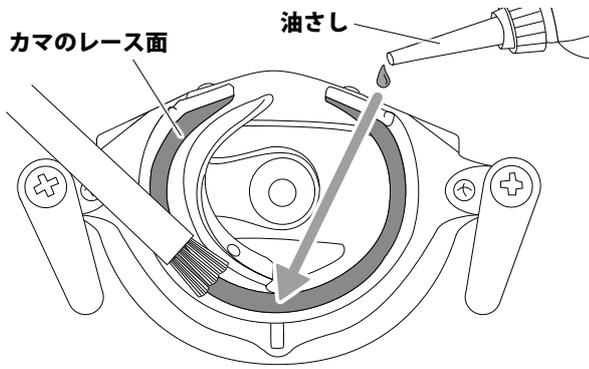


中ガマふた押え



- 【5】両方の『中ガマふた押え』を開きます。

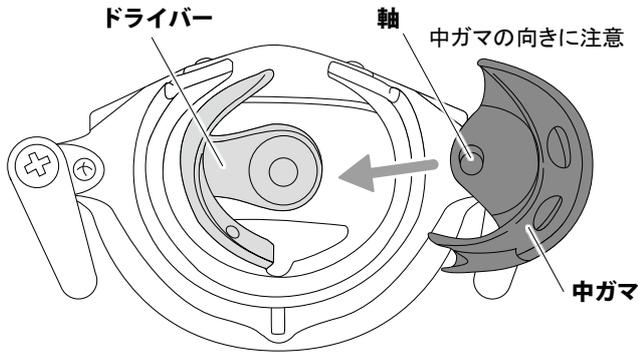
- 【6】①『中ガマふた』、②『中ガマ』の順番で取り外します。



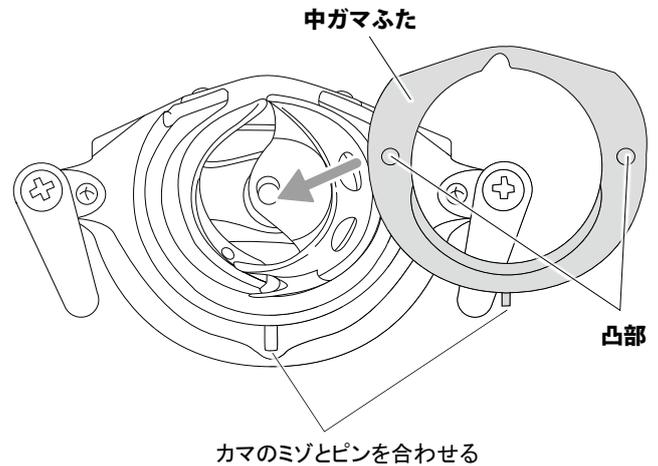
- 【7】『カマのレース面』の糸くずやほこりを
ブラシなどで取り除きます。
イラストの位置に『油さし』で油を一滴さします。
*油はさし過ぎないようにしてください。
*ブラシは付属しておりません。
布や歯ブラシなどでも代用できます。



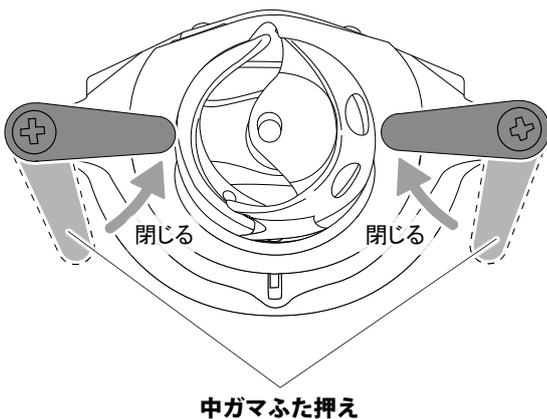
- 【8】イラストの矢印部に触れ、傷を確認します。
傷がある場合、細かい紙やすり
(400 ~ 1000 番) で削り取ります。
*傷が残っていると糸絡みや目飛びの原因になります。
*傷が深くて、紙やすりで取り除けない場合は部品を
交換してください。



- 【9】『中ガマ』の中央の軸をつまみ、
『ドライバー』と『中ガマ』が円形に
なるように取り付けます。



- 【10】『中ガマふたの凸部』を表にし、『カマの
ミゾ』と『ピン』を合わせて、『中ガマ
ふた』を取り付けます。



- 【11】『中ガマふた押え』を閉じて固定します。
*『凸部』の真上に『中ガマふた押え』を確実にのせ
固定してください。
*『中ガマふた押え』の止めかたが不十分だと使用中、
カマが外れる恐れがあります。
*『はずみ車』を手前にゆっくり回して、スムーズに
回るか確認してください。

- 【12】ミシン本体を持って、ゆっくり戻します。

- 【13】『ミシンストッパー』を左に回して、ミシン本体に
のせ、『ミシンストッパーネジ』を締めます。
*詳しい内容については P50 のミシン本体を
戻すをご参照ください。

お手入れ：送り歯のそうじ



警告



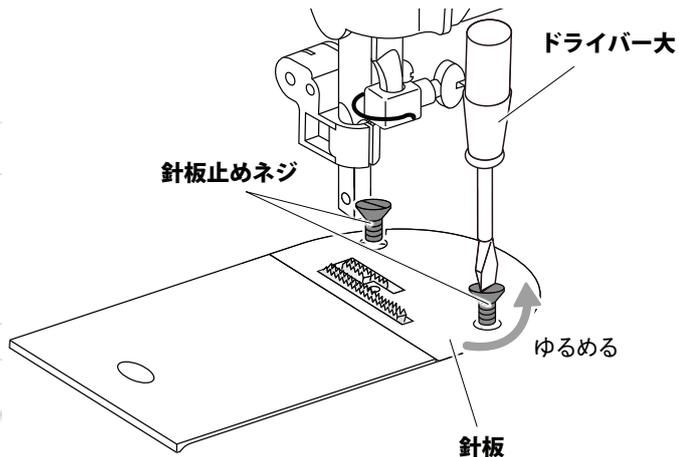
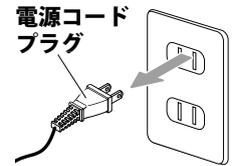
- ・ 付属品などの小さな部品は口に入れないでください。
窒息する恐れがあります。
誤って油を飲んでしまったときは、医師に『鉱物油』であることを告げて治療を受けてください。



注意

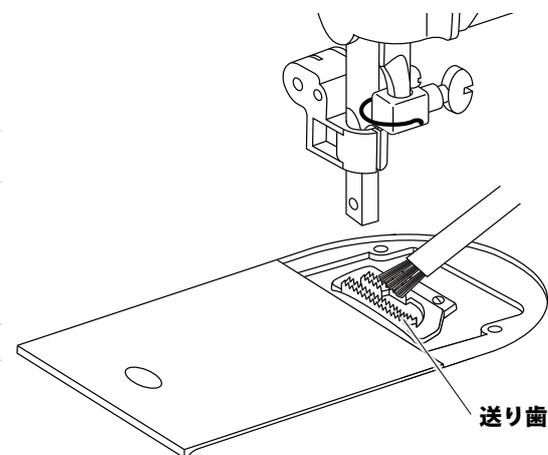


- ・ 電源コードプラグをコンセントから抜いてください。
- ・ はずみ車、天びん、針周辺に手や物を置かない。
突然動くケガをする恐れがあります。



- 【1】『押え』と針を外します。
(P43の押えの取り外しかた・取り付けかた、P46の針の取り替えかたをご参照ください)

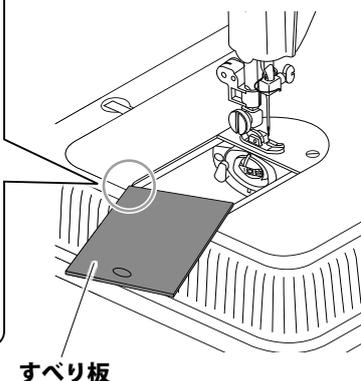
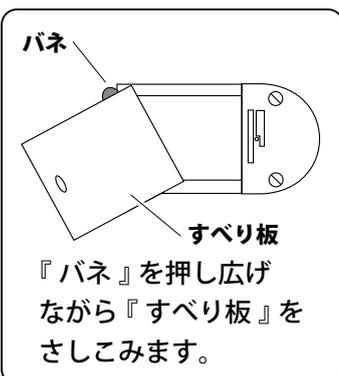
- 【2】 付属の『ドライバー大』で『針板止めネジ』2個を外します。



- 【3】 『送り歯』の間にはさまっているゴミなどを取り除きます。

- 【4】 『針板』を『針止めネジ』で止め、針と『押え』を取り付けます。
(P43の押えの取り外しかた・取り付けかた、P46の針の取り替えかたをご参照ください)

● すべり板が外れてしまったときは



- 【1】 『すべり板のバネ』を押し広げながら、片側を本体にはさみます。
- 【2】 『すべり板』を斜めに回しながらもう片方の『バネ』を押し広げてさしこみます。
- 【3】 本体のミゾと『すべり板』の向きを合わせて取り付けます。

困ったときは

不具合	原因	処理	ページ
ミシンが動かない	フットコントローラーの差し込みが不十分	フットコントローラー差し込み口と電源コードプラグをしっかりと差し込む	10
	ボビンケースが正しくセットされていない	ボビンケースを正しく取り付ける	21
	布に針を刺していない／フットコントローラーの踏み込み量が足りない	布に針を深く刺してから動かす／フットコントローラーをもう少し踏み込む	31、33
縫い始めてすぐ止まる	上糸かけの手順が間違っている	糸を全て外し、最初からかけ直す	22
	フットコントローラーの踏み込み量が足りない	フットコントローラーをもう少し踏み込む	33
	曲がった針を使用している	新しい針に交換する	46
	ボビンケースが正しくセットされていない	ボビンケースを正しく取り付ける	21
	カマに糸が噛みこんでいる	カマ内の糸を取り除く	51
ミシンが途中で止まる	糸が絡んでいる	絡んだ糸を取り除き、糸をかけ直す カマに傷がある場合、取り除く	51
	使用しているボビンの種類が違う	正規のボビンを使用する	7、56
	縫い始めの糸が引き込まれている	縫い始める前に縫い始め糸絡み防止器に糸をかける	31
	布に針を刺していない／フットコントローラーの踏み込み量が足りない	布に針を深く刺してから動かす／フットコントローラーをもう少し踏み込む	31、33
	布を引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	33
	中ガマふたが固定されていない	中ガマふたを正しく取り付ける	51
糸が絡まる	上糸調子が弱過ぎる	糸調子を強くする	39
	上糸調節器皿に糸が入っていない	押えを上げてから、上糸調節器皿に糸をかける	26、39
	縫い始める前に下糸を引き上げていない	下糸を引き上げる	28
	縫い始めの糸がカマに絡んでいる	縫い始める前に縫い始め糸絡み防止器に糸をかける	31
	糸立て棒にコーン型の糸を使用している	コーン型の糸は糸立て台を使用する	14、22
	糸立て台の位置が合っていない	糸立て台の位置を合わせる	15、23
	カマや針板に傷がある	カマや針板の傷を取り除く	51
布の裏がタオル状になる	上糸が上糸調節器皿や糸取りバネから外れている	糸を全て外し、最初からかけ直す	22
	押えを下げていない	押えを下げる	31
縫い目に輪ができる	上糸調子が弱過ぎる	上糸調子を適正な強さにする	39、40
	カマや針板に傷がある	カマや針板の傷を取り除く	51

不具合	原因	処理	ページ
上糸が切れる	上糸、下糸のかけかたが間違っている。 または外れている	糸を全て外し、最初からかけ直す	20、22
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な強さまで弱める	39、40
	ボビンケースやカマに糸くずが 噛みこんでいる	ボビンケースやカマの糸くずを きれいに取り除く	51
	針が曲がっている。針先が欠けている	新しい針に交換する	46
	糸立て棒に糸が巻きついている	糸立て棒から糸をたるませない	-
	針や糸が布に合っていない	布に合った針と糸を使用する	40
	針の取り付けかたが間違っている	針の向きを正しい向きで固定する。 針を針棒の奥まで差し込んで固定する	46
	使用しているボビンの種類が違う	正規のボビンを使用する	7、56
	糸が古く、切れやすい	新しい糸に交換する	-
	ボビンケースが正しくセットされていない	ボビンケースを正しく取り付ける	21
	カマや針板に傷がある	カマや針板のお手入れをする	51

下糸が切れる	下糸のかけかたが間違っている	下糸を正しくかけ直す	20
	ボビンケースの中で糸を引いても ボビンが回らない／ボビンが変形している	正規のボビンを使用する。 ボビンの糸をきれいに巻きなおす	18、19
	ボビンの巻き始めの糸を切っていない	ボビンの外側の糸を根元から切る	18
	糸が古く、切れやすい	新しい糸に交換する	-

針が折れる	布を無理に引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	33
	布に対して針が細い	布に合った針を使用する	40
	針の取り付けかたが間違っている。 (針の向きが間違っている。 奥まで差し込まれていない)	正しく針を取り付ける	46
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な強さまで弱める	39
	カマや針板に傷がある	カマや針板の傷を取り除く	51
	ボビンケースが奥まで入っておらず 回っている	ボビンケースを奥まで取り付ける	21

縫い目がとぶ	針が曲がっている。針先が欠けている	新しい針に交換する	46
	針の取り付けかたが間違っている。 (針の向きが間違っている。 奥まで差し込まれていない)	正しく針を取り付ける	46
	針や糸が布に合っていない	布に合った針と糸を使用する	40
	針に通す糸の方向が逆になっている	糸は針穴に左から右に通す	27

不具合	原因	処理	ページ
布を送らない	押えの圧力調節量が弱い	押え圧力調節ボタンを適切な位置まで押し込む	41
	押えが下がっていない	押えを下げる	31
	縫い始めや段差の箇所押えが傾いている	押えが水平になるように合わせる	42
	手で布を引っ張っている	手は軽く添えるだけにする	33
	上糸調子が強過ぎる	上糸調子を適正な強さまで弱める	39
	布がシワになる	上糸、下糸が途中で引っかかっている	糸を全て外し、最初からかけ直す
針や糸が布に合っていない		布に合った針と糸を使用する	40
縫い目が細かくなっている		送り調節を大きくする	36
下糸がキレイに巻けない	ボビンに糸が均等に巻けない	下糸巻き案内の位置を調整する	19
	糸がゆるく巻かれる	下糸巻き案内皿に糸が正しくかかっている	14、16
下糸を引き上げられない	上糸を手で持っていない	上糸を持ち、はずみ車を回して天びんが1番上に上がったときに右側に引っ張る	29
	はずみ車を反対に回している	はずみ車を手前に回す	29
	針に通す糸の方向が逆になっている	糸は針穴に左から右に通す	27
回転が重い	カマに糸くずが絡んでいる	カマの糸くずを取り除く	51
	針先が潰れている	新しい針に交換する	46
音が大きい	厚い布を縫っている	異常ではありません	-
	中ガマふたが固定されていない	中ガマふたを正しく取り付ける	51

* これらの現象、原因以外の不具合はミシン内部の調整や部品の摩耗による交換または電気系統の故障が原因となっている可能性があります。ご購入店または弊社サービスセンター（P57）までご相談ください。

* 基本的に糸調子を合わせるのは『上糸調節つまみ』を調節します。
 長期間太い糸を使用している場合、『上糸調節つまみ』だけでは糸調子が合わない場合があります。
 その場合、『ボビンケース』の『調節ネジ』を回して糸調子を調節します。

* 『ボビンケース』の『調節ネジ』は付属の『ドライバー小』で90度ずつ回し、試し縫いを繰り返して糸調子を合わせます。



仕様

型式：OM-01	サイズ：W:445 × L240 × H305 (mm)	重量：11.6kg	最大送り量：約 4mm	押え高さ：最大 8.5mm
返し縫い送り量：最大 3.6mm	回転速度：800rpm	定格消費電力：90W	電気定格：100V 90W 50/60Hz	
使用針：ミシン針 (HL × 5 # 18 番)		ボビン：家庭用鉄ボビン (高さ 20.5mm × 直径 11.5mm)		
フットコントローラー：型式：YC-480 定格：AC100V				

修理サービス要領

●修理サービスのご相談

- 【1】 このミシンのご購入者には、ご購入日から1年間の「無料修理保証書」が発行されます。内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 【2】 修理サービスは無料保証期間内および期間経過後も原則としてご購入店が承りますので、ご相談ください。
- 【3】 修理サービスについてお問い合わせやご不審のある場合は、ご購入店または、弊社にお申し付けください。

●修理用部品の保存と供給

動力伝達機能部品および縫製機能部品のうち、交換修理に必要な部品は、ご購入の日から通常7年間は必要に応じて弊社よりご購入店に供給できる体制を整えております。

●無料修理保証期間後の修理サービス

- 【1】 取扱説明書に基づいて、正しい使用とお手入れがされていれば、無料修理保証期間を経過しても修理用部品の供給可能期間中は、ご購入店を通じて有料で修理サービスを致します。ただし、次に該当する場合は、有料でも修理できない場合がありますので、ご購入店または、弊社にご相談ください。
 - イ. 保存上の不備または、落下による破損、誤使用により不調、故障または損傷したとき。
 - ロ. 浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
 - ハ. ご購入後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
 - ニ. ご購入店または当社の指定する販売店あるいはサービス店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
- 【2】 長期間にわたってご使用されたミシンの精度の劣化は修理によって元どおりに修復できないことがあります。
- 【3】 有料修理サービスの場合の費用は、別に定める必要部品代金、交通費および技術料金の合計額となります。

お問い合わせまたはご相談先

ミシンについてのお問い合わせ、ご相談はご購入店のほか、下記弊社サービスセンターにて承っておりますので、ご遠慮なくお申し付けください。



* お問い合わせのメールフォームに移動します。

株式会社 **アックス ヤマザキ** サービスセンター

TEL : **0120-405-851**

* 携帯電話からもご利用になれます。

E-Mail : **info@axeyamazaki.co.jp**

平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

〒544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5 株式会社 **アックス ヤマザキ**

TEL : 06-6717-5851 FAX : 06-6741-7875 平日 9:00 ~ 17:00 (土・日・祝祭日除く)

- * 住所および電話番号は都合により変更することがありますのでご了承ください。
- * 純正部品の購入についてのお問い合わせは、ご購入店のほか、上記弊社サービスセンターにおたずねください。
- * ご購入頂きましたミシンは、上記の専門工場で点検修理等のサービスを致します。
- * サービスには有償修理点検と無償修理点検があります。ミシン送付前に必ず弊社サービスセンターにお問合せください。
- * ミシンを工場へ送付されるときは、必ずこのミシンの箱と緩衝材(クッション)をご利用ください。
- * 運送時、ミシンが揺れてミシン本体が破損してしまう場合があるので梱包するとき注意してください。

ミシン保証書

型 式	オーエム OM-01 シリーズ	機 械 番 号		ご購入後には ※印欄への記入の 有無をご確認下さい。 記入がないときは ご購入日、または お届け日が証明できる 伝票などを添付して ください。 本書は再発行 致しません。 紛失しないように 大切に保管して下さい。
※お買い上げ日	年 月 日	保 証 期 間	お買い上げ日より本体1年	
※お 客 様	ご住所	〒 _____ TEL _____	様方	
	フリガナ ご芳名		様	
※販 売 店	住 所	〒 _____		
	店 名		TEL _____	

無料修理保証に付いて

1. 無料修理保証期間（ご購入の日から1年間）内に故障が発生した場合は、無料で故障箇所の修理調整、または故障部品の交換を致します。
2. 無料修理保証は表記のミシン本体のみとし、ケース、針及び電球などの消耗部品を除きます。
3. 無料修理保証をお受けいただくときは、この保証書を提示してください。
4. 保証機種がコンパクトミシンまたは、軽量可搬のポータブルミシンなどであるときは、そのミシンを購入店へご持参、またはご相談ください。

無料修理保証が受けられない場合

次のような場合には、保証期間内でも保証の対象とはなりません。

1. 「取扱説明書」に記載してある使用方法または、保存方法と異なる方法によったため不調、故障または損傷したとき。
2. 落下による破損、浸水、冠水、火災、天災地変により不調、故障または損傷したとき。
3. ご購入店または、弊社で指定した販売店、サービス店以外で修理分解または改造したために不調、故障または損傷したとき。
4. 職業用など過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
5. 特別なご依頼により点検、精密検査または分解及び掃除などをしたとき。
6. この保証書のご提示がなかったとき。
7. この保証書に購入年月日、ご購入店名の記載または捺印がなかったとき。
8. この保証書の字句の訂正または書き換えをしたとき。
9. この保証書は日本国内に限り有効と致します。 This warranty is valid only in Japan.

有償修理について

上記の1.～9.に該当する場合、その他有料で修理するときの費用は、別に定める必要部品代および技術料の合計額と致します。

お問い合わせまたはご相談先

この保証書に記載してありますご購入店または、取扱説明書に記載された「サービスセンター」にお申し付けください。

お客様へのお願い

1. この保証書は、本書によって明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の権利を制限するものではありませんので、保証期間経過後の修理について、ご不明の場合はご購入店または、弊社の「サービスセンター」などにお問い合わせください。
2. 取扱説明書の「修理サービス要領」をよくお読みください。
3. この保証書は紛失されても再発行いたしませんので、大切に保管してください。

AXE YAMAZAKI 【保証責任者】 株式会社 アックスヤマザキ

〒 544-0022 大阪府大阪市生野区舍利寺 3-12-5
TEL:06-6717-5851